

5. 入手資料リスト及び資料の一部写し

※訪問国順。「*」印を付したものは写しを添付。

1. アルゼンチン

(1) DVD「愛するブエノスアイレス」(ブエノスアイレス観光案内、日・英・西・葡語ナレーション付。現地調査費にて購入)

* (2) アルゼンチン共和国中央政府組織図(2003年1月29日現在、JICAアルゼンチン事務所作成)

* (3) 対日メルコスール委員会会議報告(2003年6月10日、於ウルグアイ・モンテビデオ。JICAアルゼンチン事務所より公電AG/3R-087号にて送付)

2. ウルグアイ

* (1) 2月にウルグアイを訪れた外国人客国籍・入国地別内訳(2002年、2003年。ウルグアイ観光省より入手)

* (2) メルコスール観光特別会議(RET)第33回(2001年4月4~6日)・第34回(2001年9月5~7日)議事録(西語、ウルグアイCCT委員・RET委員より入手)

3. パラグアイ

* (1) 「メルコスール観光振興プロジェクト形成調査団の対処方針に係るパラグアイ事務所としてのコメント」(平成15年3月20日付、JICAパラグアイ事務所)

* (2) パラグアイ・スペイン間の科学・技術・文化協力に関する第4回会合の協議録について(観光開発関連の協力に関する記載あり。2003年1月24日付けパラグアイ大統領府企画庁配属JICA専門家中内専門家作成資料)

* (3) 国家文化遺産保存キャンペーンの実施について(2003年3月4日付けパラグアイ大統領府企画庁配属JICA専門家中内専門家作成資料)

* (4) イグアス移住地・市街地地図

* (5) イグアス日本人会2002年概況

(6) パラグアイ農業総合試験場(CETAPAR)資料(パンフレット、技術協力プロジェクト概要表・2001年度年報)

(7) 2003 年度イグアスの日本語教育（在パラグアイ共和国・イグアス日本語学校要覧）

(8) イグアス農業協同組合（COOPERATIVA YGUAZU AGRICOLA LIMITADA）2002 年度概況

* (9) 世界観光機関アメリカ委員会（2003 年 5 月 12～13 日、於パラグアイ・アスンシオン）関連記事及び和文要約（JICA パラグアイ事務所発公電 PG/3R-041 号にて送付）

* (10) 「対日メルコスール委員会」設置に係る議事録（2003 年 5 月 12～13 日、於パラグアイ・アスンシオン。各国観光閣僚署名、JICA パラグアイ事務所発公電 PG/3R-061 号にて送付）

4. ブラジル

(1) ANUARIO ESTATISTICO EMBRATUR-2002（2002 年ブラジル観光公社発行統計、ポルトガル語）

(2) SINOPSE DO TURISMO NO ESTADO DE SAO PAULO “Paulo, Um Mundo Todo Num So Estado”（2003 年 2 月発行サンパウロ州観光統計、ポルトガル語）

* (3) ブラジル観光省発表国家観光計画一行動指針、目標及び計画 2003-2007（和文仮訳）

* (4) メルコスール観光特別会議（RET）第 3 5 回会合議事録ドラフト（2003 年 6 月 23～24 日、於ブラジル・ブラジリア。JICA ブラジル事務所より公電 BR/TIC-014 号にて送付）

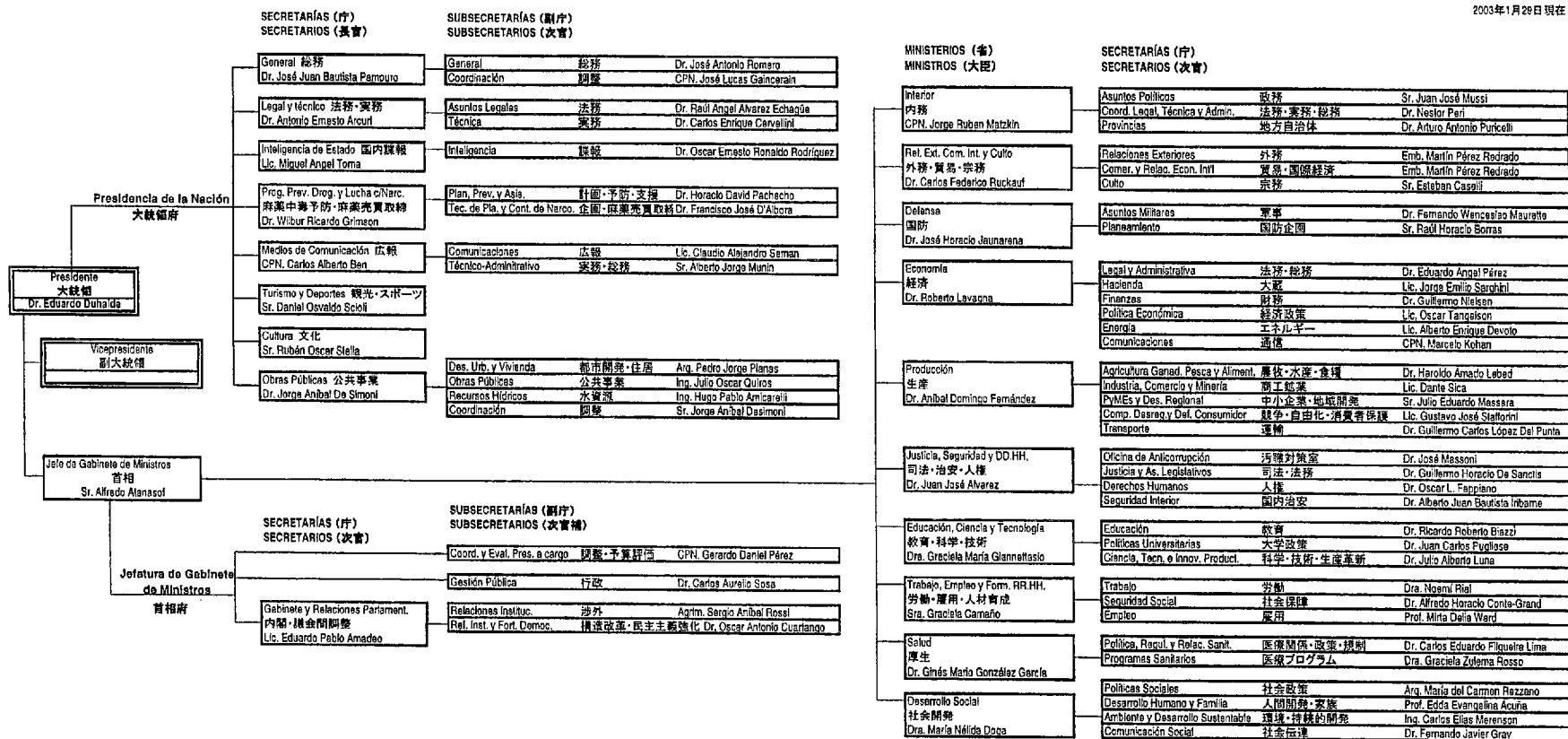
5. その他：

* (1) 2002 年 2 月～3 月に開催された JICA メルコスール観光振興セミナー（国別研修）参加者リスト（TIC 主催）

(2) 各種観光パンフレット・地図（各国政府、アマゾナス州・リオデジャネイロ州・サンパウロ州政府、及び各国日系旅行社より入手）

アルゼンティン共和国・中央政府組織図

2003年1月28日現在



*各省の下部機関であるSECRETARÍAの長たるSECRETARIOについては、「大臣」に次ぐ者という意味で「次官」とする。従って、その下部機関SUBSECRETARIAの長たるSUBSECRETARIOは「次官補」。首相府の場合も同様で、首相に次ぐ者であるSECRETARIOは「次官」、それに次ぐSUBSECRETARIOは「次官補」。大統領府は大統領直屬であり大臣(もしくは大臣級)が存在しないため、SECRETARIOを「長官」とし、SUBSECRETARIOを「次官」とする。

RCVD
JICA OFFICIAL FACSIMILE MESSAGE

1.(3)



NO. AG / 3R- 087 PAGE 1 / 5

DATE: 18 / Jun / 2003

To: MD of 3R 中南米部長

From: RR of AG (アルゼンチン事務所長)

C.C./ I sent to: 4RRs of JICA Offices (BR, BRSP, BRBL, PG), MD of TIC

Subject: メルコスール観光振興プロジェクト(案)にかかる「日本・メルコスール委員会(観光振興)」会議録の送付

Requests Pls. reply For your info Others

Ref. No. (YOURS)

(OURS)

Please transfer to:

標記に関し、平成15年6月10日にウルグアイ国モンテビデオ市で、「日本・メルコスール委員会(観光振興)」に関する会合が開催されましたので、その会議報告を別紙にて送付いたします。文中3.(6)にあるように右会議の中で先方からいくつかの点について質問事項や依頼事項が寄せられておりますので、内容ご賢察のうえ、それらに対する回答およびコメント等含めてご教示いただきますよう御願いたします。

別紙:「日本・メルコスール委員会(観光振興)」に関する会議報告

END

NOTICE: If you have received this communication in error, please notify the sender immediately.
Thank you for your assistance.

3304230

(文責：富永健一郎)

会議名：対日本・メルコスール委員会（観光振興）

日時：平成15年6月10日（火）14：00～17：00

場所：ウルグアイ国モンテビデオ市 メルコスール事務局 会議室

参加者：

<日本側>

JICA アルゼンチン事務所 富永健一郎広域企画調査員

<メルコスール>

メルコスール事務局 Vilmar R. Coutinho Jr. (技術専門官)

ブラジル Joao Carlos Vasconcellos

(Embratur 副総裁、伯国委員の代理として出席)

アルゼンチン 欠席 (政権交代による組織改編にかかる業務により)

ウルグアイ Gloria Campos 委員 (観光省)

German M. Coutinho Rodriguez (サルト市観光局)

パラグアイ Jorge Ramirez 委員 (Senatur)

(会議の経緯と背景)

本会議は、現在対メルコスール技術協力案件として案件形成が図られている「メルコスール観光振興プロジェクト」(以下、プロジェクト)に関連して、平成15年5月12、13日にパラグアイ国のアスンシオン市で開催された「国際観光会議」の中で、メルコスール加盟4カ国の観光省庁関係者の合意のもと発足した「日本・メルコスール委員会(観光振興)」(以下、「対日メ委」)の会合として開催された。なお、本会議は、平成15年6月23、24日にブラジルで開催予定の「メルコスール観光関係会議」の準備会合としても位置づけられているため、6月9日、10日の会議の中で、右プロジェクト案に関連する議事だけではなく、右関係会議の議題案もあわせて協議された。

(会議要旨)

メルコスール加盟各国からは、上述の観光振興にかかる「対日メ委」委員(以下、「メ委員」)とメルコスール事務局から技術専門家が参加して、日本側からは「対日メ委」の参加要請を受けて JICA アルゼンチン事務所の富永広域企画調査員(以下、企画調査員)がオブザーバー参加して、プロジェクトに関連した以下の意見交換が行われた。

1. 協力実施体制の整備

(1) コーディネーター国(機関)

先のアスンシオンでの会議(発足にかかる協議)では、プロジェクトにかかるメルコスール側の調整役となるコーディネーター国をメルコスールの議長国制に

あわせて、輪番制にするとされたが、4カ国の実施機関の意見調整から日本側とのあいだの窓口にあたる調整役は、プロジェクト運営管理の継続性や安定性を考慮すれば常任であるべきと、企画調査員から提案がなされた。これに対し、「メ委員」側ではウルグアイの観光省（担当：Gloria Campos 委員）が本プロジェクトの常任コーディネーター機関になることが確認された。

(2) 実施体制の整備

広域案件である本プロジェクトを円滑に形成・実施していくためには、第一に4カ国の代表から構成される「対日メ委」の活発な活動と結束は不可欠である。第二に協力が開始されたのちの協力投入は各国ごとに対応することが予想されるので、本件に対する各国内における実施体制の整備も重要になってくる。企画調査員から、本プロジェクトのカウンターパート（C/P）となる各国内における支援チームを編成するよう「メ委員」に提案がなされ、各国でC/Pチームづくりと民間の協力企業（観光関連事業）を早急に整理することが確認された。さらに、今後本邦で実施される研修コースにも右C/Pチームに配置された人員を派遣することもあわせて確認された。

(3) 連絡体制（ネットワーク）の整理

今後の日本側と「メ委員」側とのコミュニケーションは、次の方法で対話していくことが確認された。企画調査員から、「メ委員」側に各国の現時点における日本側の担当者名（在ウルグアイ日本大使館の林 政益書記官、JICAパラグアイ事務所鈴木所員、JICAブラジル事務所しばた職員）もあわせて伝えられた。

- 1) ウルグアイ国観光省の「メ委員」と企画調査員
- 2) 加盟各国の「メ委員」と各国のJICA事務所並びに在ウルグアイ大使館

2. 案件形成プロセス

(1) プロセスの簡略化の模索

複雑かつ時間を要するメルコスール機構内での技術協力案件の審査・承認プロセスのなかで、本プロジェクトに関連する事項を可能なかぎり円滑にすすめるための様々なアイデアが双方からだされ、最終的に次のようなプロセスが勘案された。

- 1) メルコスールにかかる観光関連の政策や技術協力は、通常メルコスール機構内の観光特別会議（REUNIONES ESPECIALIZADAS de TURISMO：略称RET）の第一審査が求められるが、右特別会議が一年以上のあいだ開催されておらず、またいつ再開されるか未定であることから、迅速に案件形成・運営を図るためには右特別会議を通さずにメルコスール内の承認を得るための方策を模索する必要がある。
- 2) そのためには、4カ国の観光省庁関係者の合意のもと充足したものの、メルコスールからは、いまだ任意組織としてしか認識されていない「対日メ委」をメルコスールとして正式な委員会＝正式に認知された外部関連団体として位置づけられるように手続きを行う必要がある。
- 3) 「メルコスール観光関係会議」（6月23、24日）において、「対日メ委」

を正式な委員会に昇格させるための協議をしてもらい、その結果をメルコスール機構内の意思決定機関である共同市場グループ(GMC)に対して提出し、承認を求める。また同時に、「対日メ委」—メルコスール技術協力委員会(CCT)—共同市場グループ(GMC)という案件承認・審査プロセスの可否を確認するように求める。

(2) PDM (プロジェクト・デザイン・マトリックス) 案

先のプロジェクト形成調査団側が提示し、4カ国からコメントが提出された「メルコスール観光振興プロジェクトPDM案」に関する「対日メ委」内の意見調整が本会議を通して終了したので、「メルコスール観光関係会議」(6月23、24日)で、正式に関係レベルで承認してもらうことになる旨、「メ委員」から言及がなされた。

(3) 今後のスケジュール

今後の想定される暫定的なスケジュールとして以下のことが、双方で協議された。

(2003年)

6月23、24日 「メルコスール観光関係会議」

9月初旬 技術協力委員会(CCT)と共同市場グループ(GMC)を通して、プロジェクトの正式要請書(案)を承認

9月中旬 メルコスール議長国(ウルグアイ)から在ウルグアイ日本大使館へ正式要請書を提出・申請

9月下旬 第二回「メルコスール観光振興セミナー」(本邦研修)

12月～3月 「メルコスール観光振興ワークショップ」(特定地域内W/S)

3. 第2回「メルコスール観光振興セミナー」(本邦研修)の対応及び右セミナー(研修)の一環としてのトラベルフェアへの出展計画について

(1) 参加の意思

「メ委員」からトラベルフェア出展の意向が伝えられた。

(2) 研修日程の確認

すでにJICAから連絡がなされている日程案で問題がないことを「メ委員」ないで確認された。

(3) 参加者(研修員)の人選

日本政府から後日送付される研修要領(GI)を受領次第、速やかに要請書を提出することが確認された。

(4) 出展にかかる共同活動のアイデア

「メルコスール観光関係会議」のなかでも協議されることが考えられるが、限られた時間内で「対日メ委」の意見調整を行うことが困難と思われるので、現時点では国ごとに「出展計画を検討することが妥当ではないか」との発言が、「メ委員」からなされた。企画調査員からは、展示場での展示やイベントの企画や、展示品の手配については、各国の在京大使館ともよく相談して、協力をもとめつつおこなうよう提案された。

(5) 観光キャンペーン用のパンフレット

すでに各国の JICA 事務所を通じて連絡がなされている日本側による観光キャンペーン用パンフレット（既存）の和文訳・製本印刷の経費負担案について、企画調査員は「メ委員」へ、早急に既存のパンフレット 1 部（10 ページ程度）を選択して、各国の JICA 事務所（ウルグアイの場合は在ウルグアイ日本大使館）に提出するよう求めた。

(6) 「メ委員」からの問い合わせと要望事項

第二回「メルコスール観光振興セミナー」について、「メ委員」から次の問い合わせおよび要望事項がなされた。これに対し、企画調査員により確認したうえ、回答することが返答された。

- 1) 出展時に必要となる観光プロモーション用の展示品について、特産品である食料品（牛肉、乳製品など）や、ワインなどの展示、日本国内への持ち込みは可能か。
- 2) 研修員の各国枠 4 名に、民間業者を含むことが可能と連絡を受けているが、イベントを行うためだけの人員を研修員の一人として受け入れることは可能か。例えば、アルパ奏者や、タンゴ奏者など。
- 3) 研修員の人選にあたり、第一回目のセミナーに派遣された研修員を再度受け入れられることは可能か（「対日メ委」の代表が元研修員であり、各国における調整役であることから）。
- 4) 研修要領（GI）の送付にあたり、正式チャンネルからの配布だけでは時間を要し、時として担当者に届かない場合もあるので、可能であれば JICA 事務所、または在外公館から各「メ委員」に直接配布していただくよう配慮を御願いたい。

4. その他

6 月 23, 24 日に開催予定の「メルコスール観光関係会議」の議題案については、「対日メ委」に関するだけでなく、メルコスール地域全体における観光振興の再活性化や、観光政策の調整（観光関連の統一税制など）にかかる政府間の対話の促進といった、観光振興対策に関連するさまざまなテーマが討議される予定である。

(以上)

MINISTERIO DE TURISMO DEL URUGUAY
VISITANTES DE NACIONALIDAD NO URUGUAYA INGRESADOS AL PAIS
EN LOS MESES DE FEBRERO DE LOS AÑOS 2002 y 2003

PUNTOS DE INGRESO	FEBRERO 2002	FEBRERO 2003	PORCENTAJE VARIACION
Carrasco	6.856	5.085	-25.83%
Chuy	886	590	-33.41%
Colonia	25.118	21.600	-14.01%
Fray Bentos	31.930	36.560	14.50%
Paysandú	6.981	11.099	58.99%
Pta.del Este	9.040	10.029	10.94%
Pto.Mvdeo.	16.841	9.431	-44.00%
Rivera	10.295	15.717	52.67%
Salto	2.890	3.223	11.52%
Otros	5.816	6.415	10.30%
TOTAL	116.653	119.749	2.65%

PUNTOS DE INGRESO	FEBRERO 2002	FEBRERO 2003	PORCENTAJE VARIACION
Carrasco	2.339	1.668	-28.69%
Chuy	5.111	4.722	-7.61%
Colonia	169	336	98.82%
Fray Bentos	80	162	102.50%
Paysandú	207	198	-4.35%
Pta.del Este	910	839	-7.80%
Pto.Mvdeo.	142	188	32.39%
Rivera	1.129	1.067	-5.49%
Salto	73	82	12.33%
Otros	3.222	3.193	-0.90%
TOTAL	13.382	12.455	-6.93%

CHILENOS			
PUNTOS DE INGRESO	FEBRERO 2002	FEBRERO 2003	PORCENTAJE VARIACION
Carrasco	1.448	2.889	99.52%
Chuy	289	830	187.20%
Colonia	163	1.206	639.88%
Fray Bentos	613	1.029	67.86%
Paysandú	67	153	128.36%
Pta.del Este	27	839	3007.41%
Pto.Mvdeo.	108	364	237.04%
Rivera	39	80	105.13%
Salto	71	207	191.55%
Otros	42	200	376.19%
TOTAL	2.867	7.797	171.96%

PARAGUAYOS			
PUNTOS DE INGRESO	FEBRERO 2002	FEBRERO 2003	PORCENTAJE VARIACION
Carrasco	175	131	-25.14%
Chuy	11	11	0.00%
Colonia	62	118	90.32%
Fray Bentos	111	135	21.62%
Paysandú	236	139	-41.10%
Pta.del Este	188	140	-25.53%
Pto.Mvdeo.	81	41	-49.38%
Rivera	4	2	-50.00%
Salto	437	359	-17.85%
Otros	319	250	-21.63%
TOTAL	1.624	1.326	-18.35%

OTRAS NACIONALIDADES			
PUNTOS DE INGRESO	FEBRERO 2002	FEBRERO 2003	PORCENTAJE VARIACION
Carrasco	5.724	5.488	-4.12%
Chuy	483	412	-14.70%
Colonia	2.341	4.232	80.78%
Fray Bentos	512	546	6.64%
Paysandú	133	143	7.52%
Pta.del Este	627	913	45.61%
Pto.Mvdeo.	1.482	2.700	82.19%
Rivera	106	108	1.89%
Salto	112	145	29.46%
Otros	370	396	7.03%
TOTAL	11.890	15.083	26.85%

TOTAL			
PUNTOS DE INGRESO	FEBRERO 2002	FEBRERO 2003	PORCENTAJE VARIACION
Carrasco	16.542	15.261	-7.74%
Chuy	6.780	6.565	-3.17%
Colonia	27.853	27.492	-1.30%
Fray Bentos	33.246	38.432	15.60%
Paysandú	7.624	11.732	53.88%
Pta.del Este	10.792	12.760	18.24%
Pto.Mvdeo.	18.654	12.724	-31.79%
Rivera	11.573	16.974	46.67%
Salto	3.583	4.016	12.08%
Otros	9.769	10.454	7.01%
TOTAL	146.416	156.410	6.83%

- Nota: 1) No están incluidos los uruguayos residentes en el exterior ni los visitantes llegados en Cruceros
 2) Están incluidos los visitantes que permanecieron menos de 24 horas o estuvieron en tránsito a otro país.
 3) Los Datos de Piriápolis se encuentran dentro de Otros. Ingresaron por ese punto 2121 en el 2002, y 654 en el 2003.

FUENTE - División Investigación - MINISTERIO DE TURISMO y Dirección Nacional de Migración

MERCOSUR / XXXIII RET / ACTA N° 01 / 01
XXXIII REUNIÓN ESPECIALIZADA DE TURISMO DEL MERCOSUR

00001

Se realizó en San Bernardino, Paraguay, en los días 04, 05 y 06 de abril del 2001, la XXXIII REUNION ESPECIALIZADA DE TURISMO DEL MERCOSUR, con la presencia de las delegaciones de Brasil, Paraguay, Uruguay, y la representación oficial de Chile, en calidad de observador.

Considerando la ausencia de representantes de la República Argentina, las coordinaciones acordaron dar tratamiento a los temas previstos en Agenda para la posterior aprobación de la mencionada delegación de todo lo acordado, en el plazo de treinta días, conforme a lo establecido por el CMC.- Decisión N° 4/93-Art.2.

La nomina de los delegados que participaron en la reunión figura en el Anexo I.

La Agenda de los temas tratados figura en el Anexo II.

Se elevan para la consideración del Grupo Mercado Común las siguientes Recomendaciones, cuyos textos forman parte de los Anexos III, IV, V y VI

- Recomendación 01/01 – Circuitos Turísticos Regionales Integrados
- Recomendación 02/01 – PROMERCOTUR
- Recomendación 03/01 – Lista de Agentes de Financiamiento
- Recomendación 04/01 – Programa de Trabajo de la RET

El Señor Ministro - Secretario Ejecutivo de Turismo de la República del Paraguay, Ing. Hugo Galli Romañach, iniciando los trabajos, da la bienvenida a los representantes de los Estados del MERCOSUR, y exhorta a los mismos un tratamiento profundo de los temas para el avance significativo en beneficio de todos los Estados Parte y Chile.

1- BASE DE DATOS

Posterior al informe presentado por la delegación de Uruguay, se acordó en la continuidad del tema, solicitando a dicha delegación el estudio de los mecanismos necesarios para la inclusión de Chile en este proyecto, siguiendo la orientación hecha por la Secretaría Administrativa del MERCOSUR a través del Señor Daniel Fraga.

2- CUENTA SATÉLITE DE TURISMO

Las Delegaciones de Paraguay y de Brasil hicieron una presentación de los avances obtenidos en ese tema. Todas las coordinaciones acordaron la importancia de participación de técnicos de las Administraciones Nacionales de Turismo, de los Institutos Nacionales de Estadísticas y de los respectivos Bancos Centrales en el Seminario sobre Cuenta Satélite de Turismo que la Organización Mundial de Turismo realizará en mayo próximo en Canadá.

3- COOPERACION TECNICA

Las delegaciones recibieron aportes acerca del tema por la representante de la Coordinación Nacional de Paraguay del Comité de Cooperación Técnica del MERCOSUR (CCT), la cual aclaró el actual estado de situación de los Proyectos así como hizo un análisis de la viabilidad de financiamiento junto al Banco Interamericano de Desarrollo (BID), la Organización de Estados Americanos (OEA), la Unión Europea y la Japan International Cooperation Agency (JICA) de los proyectos considerados por el CCT.

Posterior a un amplio debate y aclaraciones entre los delegados y la coordinadora nacional paraguaya del CCT, se acordó la necesidad que esta RET siga el proceso de elaboración de proyectos de cooperación técnica para el desarrollo del turismo en los Estados Parte, así como de la búsqueda de nuevas líneas de financiamiento.

En este sentido, la RET eleva a consideración del Grupo Mercado Común una Recomendación (REC 03/01 – RET) (Anexo V) solicitando al CCT un listado de Agentes de Financiamiento que sean pasibles de proporcionar líneas de financiación a proyectos de cooperación, independiente de su carácter turístico, social o económico, con el objetivo de encontrar nuevas opciones de financiamiento para el desarrollo de los proyectos elaborados por esta Reunión Especializada.

3.1. CIRCUITOS INTEGRADOS

Considerando el actual estado de situación del Proyecto de Circuitos Turísticos Regionales Integrados en el ámbito de Comité de Cooperación Técnica se acordó elevar una Recomendación al GMC solicitando el tratamiento del mismo.

La mencionada Recomendación (Rec.01/01-RET) se agrega a esta Acta como Anexo III.

3.2. MUNICIPALIZACION

La delegación de Paraguay informó que sigue en proceso de elaboración del proyecto, el cual posteriormente concluido se enviará para el análisis de cada una de las delegaciones.

3.3. TERMALISMO

Las delegaciones siguen aguardando el envío de la propuesta del proyecto por parte de la delegación de Argentina.

3.4. PESCA DEPORTIVA

La delegación de Brasil informó que sigue en proceso de elaboración del proyecto el cual posteriormente concluido se enviará para el análisis de cada una de las delegaciones.

3.5. CALIDAD EN LOS SERVICIOS

En lo que se refiere al Proyecto de gestión de la calidad en los servicios de alojamiento turístico del MERCOSUR y Chile sigue pendientes de los aportes de las delegaciones de Argentina, Brasil y Paraguay.

3.6. ADULTOS MAYORES

En lo que se refiere al Proyecto de Adultos Mayores sigue pendientes en los aportes de las delegaciones de Argentina, Brasil y Paraguay. Asimismo tuvo una evaluación acerca del grado de desarrollo en cada uno de los Estados Parte en este tema.

3.7. PROMERCOTUR

Considerando el actual estado de situación del Proyecto PROMERCOTUR en el ámbito de Comité de Cooperación Técnica se acordó elevar una Recomendación al GMC solicitando el tratamiento del mismo por el mencionado Comité Técnico.

La mencionada Recomendación (Rec.02/01-RET) se agrega a esta Acta como Anexo IV.

3.8. EDUCACION Y TURISMO

Las delegaciones de Paraguay, de Brasil y de Chile hicieron entrega de documentos de trabajo acerca del Proyecto de cooperación en Educación y Turismo a la delegación de Uruguay que se comprometió en proseguir con la formulación del mismo.

3.9. CLASIFICACION HOTELERA

Después de un intercambio de informes sobre el tema las delegaciones de Brasil y Uruguay reafirmaron su oferta de cooperación técnica en ese tema

4- ECOTURISMO

Posteriormente a un exhaustivo debate acerca de todo lo que ha sido tratado hasta el momento por la RET con respecto al tema de ECOTURISMO, los coordinadores acordaron sobre la necesidad de realizar un análisis de todos los documentos elaborados, recibidos o aportados en la RET como forma de verificar los tratamientos posibles al tema en el ámbito de MERCOSUR.

En lo que se refiere a la viabilidad de realizar un proyecto para el desarrollo de un Seminario, una publicación, un estudio o cualquier acción similar para la promoción del tema, las coordinaciones nacionales acordaron que el tratamiento de los mismo seguirá pendiente hasta la efectiva presentación de uno de estos proyectos, con el respectivo compromiso de ejecución, por alguno de los Estados Parte.

La delegación brasileña informó de la realización de un Seminario sobre Medio Ambiente en la ciudad de Cuiabá el próximo mes de agosto, bajo la coordinación de la Organización Mundial de Turismo - OMT, como instrumento preparatorio a las conmemoraciones del Año Internacional del ECOTURISMO en 2002.

Las delegaciones acordaron sobre la trascendencia del mencionado Seminario, además de resaltar la importancia de la participación de representantes de entidades privadas y gubernamentales de cada Estado Parte en el mismo.

5- MISIONES JESUITICAS

La delegación de Uruguay hizo la devolución del vídeo original promocional de las Misiones elaborado por el Brasil y la entrega de una copia del mismo a cada una de las delegaciones a fin de posibilitar el inicio de las acciones promocionales por los Estados Parte.

La delegación de Brasil presentó una nota con las aclaraciones hechas por la FEBAP - Federación Económica Brasil, Argentina, Paraguay, que forma parte del Acta como Anexo VII.

Posterior al análisis de la misma, se acordó la necesidad de aclarar algunos puntos presentados por la entidad. Esta aclaración será obtenida por la delegación de Brasil que la presentará en la próxima RET.

6- MUNDO GAUCHO

Considerando la necesidad de finalizar el proyecto del Manual de Ventas MUNDO GAUCHO, se acordó la fecha 20 de abril venidero como día límite para que las delegaciones puedan enviar sus aportes, comentarios e informes complementarios al proyecto a la coordinación Uruguay. Posterior a la mencionada fecha la coordinación Uruguay deberá dar secuencia al proceso de impresión del mismo, con los datos existentes.

7- PROYECTO PROTOCOLO MARCO DE SERVICIOS

La Coordinación Nacional de Paraguay del Grupo de Servicios del MERCOSUR, hizo un extenso informe y una detallada aclaración acerca del Protocolo Marco de Servicios resaltando la importancia del tratamiento de los temas por parte de esta RET.

Las delegaciones agradecieron a la mencionada coordinación por los aportes realizados, así como por la entrega de documentos de trabajo con un resumen de la actual situación del Protocolo.

Los coordinadores acordaron mantener contactos con sus respectivos representantes nacionales del Grupo de Servicios de forma a realizar una evaluación de avances posibles y mantener un permanente intercambio de informaciones entre ellos acerca del tema.

La delegación de Brasil se compromete enviar a las demás delegaciones su legislación sobre el tema GUIA DE TURISMO.

8 - OTROS TEMAS

00005

8.1- ANUARIO ESTADISTICO MERCOSUR

La delegación Uruguay hizo entrega de su Anuario Estadístico Año 2000.

La delegación de Brasil informó los nombres que han sido indicados para la coordinación del proyecto Anuario Estadístico Mercosur a saber:

- ARGENTINA : Felisa Bemaman de Nessi.
- BRASIL: Beatrice Carnielli
- CHILE: Patricia Vargas Núñez
- PARAGUAY: Delia Benítez de Gómez
- URUGUAY: Roberto Martínez Ramos

8.2- FOLLETO INFORMATIVO SOBRE EL MERCOSUR

Las delegaciones siguen aguardando el envío de la nota por parte de la delegación Argentina definiendo los materiales pendientes de entrega por cada uno de los Estados Parte para la conclusión del Proyecto.

8.3- GUIA INFORMATIVA DEL TURISMO DEL MERCOSUR

La delegación de Brasil sigue aguardando el envío del material en vía magnética por parte de la delegación Argentina para avanzar en la Guía Intra MERCOSUR.

La delegación de Uruguay sigue aguardando el envío de los aportes de las demás delegaciones para avanzar en la Guía Extra MERCOSUR.

8.4- INTERCAMBIO DE INFORMACIONES

De forma a lograr un intercambio más ágil de informaciones entre las coordinaciones nacionales se acordó utilizar el sistema de correo electrónico. Para el mismo se menciona las respectivas direcciones:

- ARGENTINA: (pendiente de información)
- BRASIL : hf @ embratur.gov.br - Humberto Figueiredo
- CHILE : csaldivia @ sernatur.cl - César Saldivia
- PARAGUAY : senatur1 @ pla.net.py - Aurelio Rojas
- URUGUAY : rmartinez @ mintur.gub.uy - Roberto Martínez

8.5- CAMARA DE DIPUTADOS DE ARGENTINA

En lo que se refiere a la gestión formulada por la Cámara de Diputados de la República Argentina, se acordó no tratar el tema ante la ausencia de la delegación de dicho país.

8.6- TRANSPORTE AEREO SUB REGIONAL

La coordinación de Paraguay informó que en el ámbito del tema Sistema de Transporte Aéreo Sub Regional, realizó su 7ma. Reunión del Consejo de Autoridades Aeronáuticas, en Santiago de Chile, cuya copia de Acta se distribuyó a las delegaciones como documento de trabajo.

Considerando los cambios previstos a ser realizados en el Acuerdo de Fortaleza, la Delegación de Paraguay no creó oportuno dar secuencia, en estos momentos, al previsto proyecto de seminario nacional para el tratamiento del tema.

8.7- RONDA DE NEGOCIOS

La delegación de Uruguay por sugerencia del Señor Ministro de Turismo Don Alfonso Varela, presentó una propuesta de realización de una ronda de negocios de productos turísticos de los Estados Parte del MERCOSUR, en ocasión de las Ferias Internacionales de Turismo, con la participación de los Estados Parte y Chile, de forma a viabilizar un incremento de las operaciones comerciales de los productos turísticos del MERCOSUR.

Las delegaciones expresaron su completo apoyo a la propuesta uruguaya y se le solicita el envío de un proyecto de ejecución de la mencionada ronda de negocios para la próxima edición de la WTM-World Travel Market, a realizarse en noviembre próximo.

De forma a obtener la plena ejecución del proyecto y su esperado éxito se solicita a la delegación uruguaya un informe permanente del tema para las Máximas Autoridades de Turismo del MERCOSUR.

8.8- MATERIAL PROMOCIONAL

La delegación de Brasil hizo entrega de algunos ejemplares de material promocional utilizado en su país de forma a que las demás delegaciones utilicen este material de trabajo en cuanto una propuesta similar en cada uno de los Estados Parte (Guía das Doencas do Viajante – Hospital das Clínicas; Guia do Passageiro – DAC; Natureza, Desenvolvimento e Turismo- SEBRAE; Material Promocional Campanha Brasil Sempre Limpo - EMBRATUR).

8.9- DECISIÓN C.M.C. 59/00

Considerando lo determinado en el Art. 9 de la Decisión N° 59/00 del CMC, las delegaciones acordaron aprobar el Programa de Trabajo de la RET conforme consta en el Anexo VI de esta Acta, que se eleva para consideración del GMC como Resolución 03/01-RET.

8.10- ESTACION TURISTICA Y CULTURAL “CERCA DEL CIELO”

Los coordinadores recibieron un informe del director de la mencionada empresa (Anexo VIII), en el cual se presenta una propuesta de realización de un festival anual de canciones y una exposición de los destinos turísticos con la participación de países integrantes del MERCOSUR, teniendo como objetivo la promoción de los mismos.

Posterior a varias aclaraciones hechas, los coordinadores acordaron en la importancia del proyecto resaltando entre tanto que el mismo debe tener un enfoque prioritario en el aspecto turístico y cultural que propenda a la integración de los pueblos. De manera a dar continuidad al tema designaron a la coordinación paraguaya para mantener el vínculo entre esta RET y la Empresa de forma a avanzar en el proyecto.

8.11. AGRADECIMIENTOS

Los Jefes de las Delegaciones de los Estados Parte y Chile agradecen el apoyo recibido por parte de la Secretaría Nacional de Turismo de Paraguay, así como del personal administrativo destacado para la realización de esta XXXIII Reunión Especializada en Turismo del MERCOSUR, los cuales contribuyeron y facilitaron el desarrollo de los trabajos.

8.12- LOCAL Y FECHA DE LA PROXIMA RET

La XXXIV RET tendrá lugar en Paraguay, en ciudad a ser determinada y deberá ser realizada en principios del mes de junio de 2001.

ANEXOS

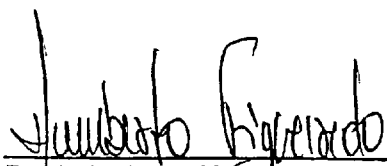
Los anexos que forman parte de la presente Acta son los siguientes

Anexo I	Lista de participantes
Anexo II	Agenda
Anexo III	Recomendación 01/01 – Circuitos Turísticos Regionales Integrados
Anexo IV	Recomendación 02/01 - PROMERCOTUR
Anexo V	Recomendación 03/01 - Lista de Agentes de Financiamiento
Anexo VI	Recomendación 04/01 – Programa de Trabajo de la RET
Anexo VII	Nota informativa de la FEBAP
Anexo VIII	Nota informativa de Estación Turística y Cultural Cerca del Cielo

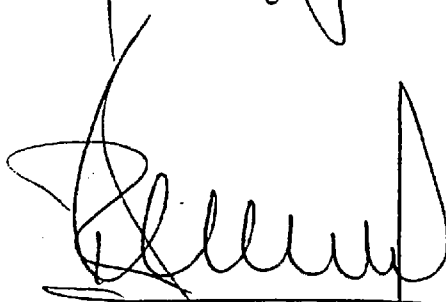
Por la Delegación de Argentina



Por la Delegación de Paraguay
Hugo Galli Romañach



Por la Delegación de Brasil
Humberto Figueiredo



Por la Delegación de Uruguay
Roberto Martínez Ramos

MERCOSUR / XXXIV RET/ ACTA N° 02 / 01

00001

XXXIV REUNIÓN ESPECIALIZADA DE TURISMO DEL MERCOSUR

2/4

Se realizó en la ciudad de Montevideo, República Oriental del Uruguay, en los días 05, 06 y 07 de setiembre de 2001, la XXXIV REUNIÓN ESPECIALIZADA DE TURISMO DEL MERCOSUR, con la presencia de las Delegaciones de Brasil, Paraguay y Uruguay, además de la Representación de Bolivia.

Considerando la ausencia de representantes de la República Argentina, las Delegaciones presentes acordaron dar tratamiento a los temas previstos en Agenda para la posterior aprobación de la Delegación Argentina de todo lo acordado, en el plazo de treinta días, conforme a lo establecido por el CMC- Decisión N° 4/93 art.2 y en la GMC-Resolución No.26/01 art.2.

La lista de Participantes de la reunión figura en el Anexo I.

La Agenda de los temas tratados figura en el Anexo II.

Se elevan para consideración del Grupo Mercado Común las siguientes recomendaciones, cuyos textos forman parte de los Anexos III y IV.

Recomendación 01/02 - Página web de la RET

Recomendación 02/02 - Proyecto de Desarrollo Potencial para Turismo de las Misiones Jesuíticas con el Spanish Trust Fund for Consulting Services, ICEX.

Los temas tratados fueron:

BASE DE DATOS

Con la presencia del Señor Daniel Fraga, Jefe de la Sección de Informática de la Secretaría Administrativa del MERCOSUR, los Coordinadores aprobaron la configuración final de la prevista página web de la RET a ser incorporada en el sitio de la página oficial de la SAM en internet.

Seguendo la orientación y sugerencias de cada una de las Delegaciones presentes, se acordó elevar a consideración del GMC una Recomendación (Anexo III) acerca del tema, solicitando, además, todos los esfuerzos de la SAM para la incorporación de la página web de la RET, de forma que la misma pueda ser disponible al público el 27 de setiembre próximo en conmemoración del Día Mundial de Turismo.

Con los efectos de aclarar la configuración acordada, se elaboró un documento detallado acerca de la misma, incluidos los tópicos y temas a incorporarse en la referida página, el cual se encuentra anexo a la Recomendación.

CUENTA SATÉLITE DE TURISMO

Las Delegaciones presentes realizaron una exposición sobre los avances obtenidos en la implementación de cada una de las Cuentas Satélites Nacionales de Turismo e instaron a que se priorice la tramitación del tema por parte de los técnicos de estadísticas de las Administraciones Nacionales de Turismo, incluyendo la participación de los mismos en los diversos encuentros y seminarios que traten el tema, bajo los auspicios de la OMT.

3. COOPERACIÓN TÉCNICA

El Coordinador Nacional de Uruguay en el Comité de Cooperación Técnica del MERCOSUR (CCT), Lic. Aníbal Cabral, realizó una presentación acerca de los términos e instrumentación de los diferentes proyectos de cooperación que se encuentran involucrados los temas de Turismo.

Los Coordinadores Nacionales tomaron nota con satisfacción de la propuesta de la oferta del Gobierno de Japón de realizar un Seminario para incentivar el Turismo proveniente de ese país hacia el MERCOSUR conforme consta en el Acta de la XLV Reunión Ordinaria del CCT.

Dada la positiva acogida de la mencionada oferta presentada, los Coordinadores Nacionales acordaron delegar a la PPT (Uruguay) de la RET la ejecución de las gestiones necesarias para implementarla, en coordinación con la PPT (Uruguay) del

3.1 CIRCUITOS INTEGRADOS

Considerando lo anteriormente expuesto la Delegación de Uruguay se encargara de realizar la actualización del Proyecto para su consideración por el CCT.

3.2 MUNICIPALIZACIÓN

El proyecto se encuentra en fase de conclusión por la Delegación de Paraguay, la cual se compromete a enviarlo para el análisis por cada una de las Delegaciones en el menor plazo de tiempo posible.

3.3 PESCA DEPORTIVA

La Delegación de Brasil hizo entrega de la propuesta del proyecto anteriormente encaminhado por fax, el se incorpora al Acta como Anexo V, y solicita el envío de aportes al mismo por parte de cada Delegación.

3.4 PROMERCOTUR

Considerando lo expuesto en el ítem 3, la Delegación de Uruguay se encargara de realizar la actualización del Proyecto para su consideración por el CCT.

00003

4/7

3.5 EDUCACIÓN Y TURISMO

Considerando los aportes recibidos en la anterior RET, la Delegación de Uruguay presentó un nuevo anteproyecto de cooperación. El mismo luego de ser analizado, recibió nuevos aportes, los cuales fueron incorporados en su rediseño.

El perfil de proyecto acordado se adjunta como Anexo VI de la presente Acta para que las Delegaciones puedan obtener la aprobación del mismo ante sus respectivas áreas técnicas. La aprobación y/o aportes deberán ser enviados a la Delegación de Uruguay en un plazo no superior a treinta días.

4. ECOTURISMO

Los Coordinadores toman conocimiento del Acuerdo Marco sobre Medio Ambiente del MERCOSUR, negociado en el ámbito del SubGrupo de Trabajo N°6-Medio Ambiente, suscripto por los Señores Cancilleres el día 22 de junio del 2001, y considerando su contenido disponen que cada Coordinador Nacional se ponga en contacto con los respectivos Coordinadores Nacionales del SGT6-Medio Ambiente, de forma de viabilizar una efectiva participación de la RET en la formulación de las pautas de trabajo de las áreas temáticas relacionadas a actividades productivas ambientalmente sustentables (Ecoturismo, Pesca Sustentable), entre otras.

Se toma conocimiento de la realización de la Reunión de Ministros de Medio Ambiente de América Latina y el Caribe a realizarse en la ciudad de Río de Janeiro los días 21 a 24 de octubre próximo. Las Delegaciones subrayaron la importancia de la participación de representantes del sector turístico en la misma teniendo en cuenta la prevista suscripción de la "Carta del Continente" a ser considerada en la Reunión "RIO + 10", que tendrá lugar en setiembre de 2002 en Sudáfrica.

5. MISIONES JESUÍTICAS

La Delegación de Brasil informo que, de acuerdo a lo previsto en la RET anterior, ha solicitado aclaraciones a FEBAP- Federación Económica Brasil, Argentina, Paraguay- y que hasta la presente fecha no ha recibido contestaciones a la misma.

Las Delegaciones tomaron conocimiento de la solicitud de cooperación técnica realizada por Paraguay ante la OMT para la elaboración de un proyecto en el marco del Mercosur para la ruta internacional de las Misiones Jesuíticas. Dicha solicitud, presentada en ocasión de la 37° Reunión de la Comisión de la OMT para las Américas, que tuvo el apoyo de Argentina, Brasil y Uruguay, fue aprobada de forma unánime en la mencionada Reunión.

Los Coordinadores recibieron con beneplácito el apoyo de la OMT a la solicitud planteada y encomendaron a la Presidencia Pro Tempore enviar nota informativa a la Organización, expresando su satisfacción e informando que una vez elaborado el mismo será enviado para su análisis y consideración.

00004⁷
5/4

Los Coordinadores Nacionales de la RET tomaron conocimiento del proyecto de cooperación técnica para la investigación del potencial comercial y turístico de las Misiones, el cual fue presentado por Argentina ante el BID.

Acordada la validez del mismo como elemento complementario a los proyectos en ejecución en todos los Estados Parte del MERCOSUR, además de agregar la región de Misiones en Bolivia, acordaron aportar al mismo sus apoyos políticos y aportes económicos.

Entretanto, por considerar que Uruguay ha participado en la formación del Circuito Integrado de la RET denominado Misiones Jesuíticas, así como ha emprendido una importante inversión para la puesta en valor y sitio de sus atractivos turísticos misionales. Por lo tanto, los Coordinadores Nacionales de la RET, con el apoyo de la Representación en Bolivia, solicitan al BID el estudio de viabilidad de inclusión de ese Estado Parte en el referido proyecto.

La participación de Uruguay en las distintas actividades acordadas en el marco del Tratado de Asunción, donde podría destacarse la realización de estudios históricos y arqueológicos de rescate de su Patrimonio Cultural e Histórico, seguramente justifica la inclusión solicitada.

Por lo tanto, por considerar que la participación de Uruguay asegurará una mayor y más completa representatividad en la ejecución del proyecto se acordó elevar una Recomendación al GMC (Anexo IV) solicitando que el mismo instruya al CCT para que realice una gestión ante el BID a los efectos de obtener la deseada inclusión de Uruguay en el referido proyecto de cooperación técnica.

MUNDO GAUCHO

Considerando la necesidad de finalizar el proyecto del Manual MUNDO GAUCHO, se acordó extender treinta días como fecha límite para que las Delegaciones puedan enviar sus aportes, comentarios e informes complementarios al proyecto a la Coordinación Nacional de Uruguay. Transcurrido el mencionado plazo la Coordinación Nacional de Uruguay finalizará la publicación del Manual de Ventas con los datos recibidos a la fecha.

PROTOCOLO MARCO DE SERVICIOS

Considerando la necesidad de identificar los aspectos de liberalización de acceso a mercados y trato nacional que ya han sido acordado en materia de Servicios de Turismo relacionados con los viajes, los Coordinadores acordaron que cada Delegación intensifique el tratamiento del tema con sus respectivas Coordinaciones Nacionales del Grupo de Servicios y manteniendo un intercambio de información entre ellos sobre los avances alcanzados.

OTROS TEMAS

00005

1 RONDA DE NEGOCIOS

Delegación de Uruguay presentó un Formulario de orientación para la realización de las previstas Rondas de Negocios. Luego de un intercambio de ideas el mismo fue aprobado por las Delegaciones.

6/7

Uruguay propuso que la primera ronda de negocios se realice en oportunidad de la participación de los Estados Partes en la Feria Internacional de Turismo-FITUR (Madrid, España - 2002) procediendo al lanzamiento del Producto MUNDO GAUCHO.

Sin perjuicio de lo cual y como adhesión al Año Internacional del Ecoturismo los Estados Partes acordaron presentar lo más significativo de sus productos Ecoturísticos Nacionales.

2 ANUARIO ESTADÍSTICO MERCOSUR

Se acordó la necesidad de incrementar los contactos entre los responsables de la área estadística en cada una de las Administraciones Nacionales de Turismo, de acuerdo a lo establecido en el ítem 8.1 del Acta de la XXXIII RET.

Para ello los Coordinadores Nacionales se comprometen a intercambiar las direcciones electrónicas de los mencionados funcionarios.

La Delegación de Brasil hizo entrega de su Anuario Estadístico Año 2001 a las demás Delegaciones.

3 TRANSPORTE AEREO SUB REGIONAL

Se recibió al Director Nacional de Aviación Civil e Infraestructura Aeronáutica Coronel Félix Tornoni, y al Director de Transporte Aéreo Comercial Esc. Pablo Setum, quienes realizaron un detallado informe del estado de situación actual del Acuerdo de Transporte Aéreo Subregional, transmitiendo a los Coordinadores las acciones encaminadas para obtener una mayor facilitación turística a los usuarios de los aeropuertos comprendidos en dicho Acuerdo.

La Coordinación de Paraguay hizo entrega como material de trabajo del Acta de la VIII Reunión del Consejo de Autoridades Aeronáuticas, realizada en Asunción, Paraguay.

4 AUSENCIA DE DELEGACIONES

Considerando la no presencia de la Delegación Argentina, no se trataron los siguientes temas: Termalismo, Folleto Informativo y Guía Informativa del MERCOSUR. De la misma forma los temas Adultos Mayores y Calidad en los Servicios, no fueron tratados considerando la ausencia de la representación de Chile.

Independientemente de lo expresado, la delegación de Uruguay informó el estado actual de situación en su país en lo referente a los temas Adultos Mayores y Termalismo.

00006 6

7/11

Los Coordinadores Nacionales presentes expresan su preocupación por no obtener la presencia de los representantes de los cuatro Estados Partes de MERCOSUR en las tres últimas RET.

AGRADECIMIENTOS

Los Jefes de las Delegaciones de los Estados Partes agradecen el apoyo recibido por parte del Ministerio de Turismo de Uruguay, así como del personal administrativo destacado para la realización de esta XXXIV Reunión Especializada de Turismo del MERCOSUR, los cuales contribuyeron y facilitaron el desarrollo de los trabajos.

LUGAR Y FECHA DE LA PRÓXIMA RET

La XXXV RET tendrá lugar en Uruguay, en ciudad a ser determinada y deberá ser realizada al primeros días del mes de noviembre de 2001.

ANEXOS

Los anexos que forman parte de la presente Acta son los siguientes:

Anexo I - LISTA DE PARTICIPANTES

Anexo II - AGENDA

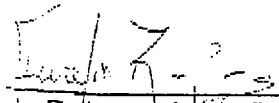
Anexo III - RECOMENDACIÓN 01/02 - PAGINA WEB DE LA RET

Anexo IV - RECOMENDACION 02/02 - Proyecto de Desarrollo Potencial para Turismo de las Misiones Jesuíticas con el Spanish Trust Fund for Consulting Services, ICEX

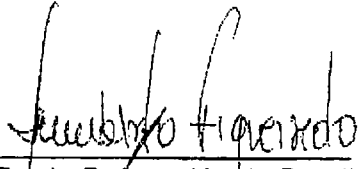
Anexo V - PROPUESTA DE PROYECTO PESCA DEPORTIVA

Anexo VI - PERFIL DE PROYECTO EDUCACION Y TURISMO

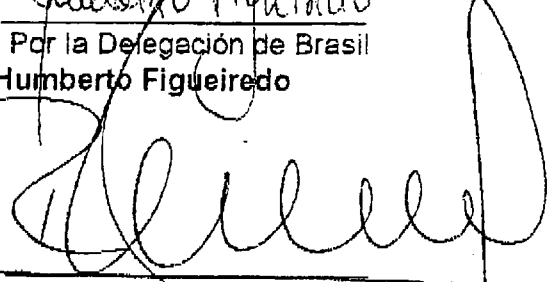
Por la Delegación de Argentina



Por la Delegación de Paraguay
Dr. Aurelio Rojas



Por la Delegación de Brasil
Humberto Figueiredo



Por la Delegación de Uruguay
Prof. Roberto Martínez Ramos

メルコスール観光開発技術振興プロジェクト形成調査団の対処方針に係る
パラグアイ事務所としてのコメント

平成 15 年 3 月 20 日

パラグアイ事務所 業務班

1. 基本的考え方

本プロジェクト形成調査は、日本人観光客の誘致を目的としたものであるが、パラグアイ国においては、プロジェクトの投入規模等、当国の実情（観光資源、政府機関の実施体制）に応じた現実的な対応とすべき。また、当国での本プロジェクト実施に当たっては、日本人観光客の誘致を主目的とせず、域内観光客誘致に主眼を置き、日本人観光客誘致は副次的なものとするのが適当。

2. 理由

(1) パラグアイ国における日本人観光客誘致の困難性

1) 当国は、アルゼンティン、ブラジルに比較し、日本人観光客を魅了する観光資源が著しく乏しいため、当国に日本人観光客を現状以上に誘致するのは極めて困難と認識。日本国内でのこれまでの南米観光マーケットの現状がこれを示しており、当国においては、イグアスの滝（観光スポットは、主としてブラジル側）、イタイプ発電所以外は、日本人観光客を誘致し得る観光スポットになっていない。こうした中、当国において JICA プロジェクトにより一代旋風が巻き起こせるか疑問。

（その他、エンカルナシオン市近郊に映画「ミッション」の舞台となったトリニダー遺跡があるが日本人観光客はごく少数）

2) また、日本人の旅行習性やコスト等に鑑みて日本からの観光客誘致を目的とした新規の観光資源開拓も困難であると思料。

3) 他方、チリ、アルゼンティン等、近隣諸国からの外国人観光客は、アスンシオン市内でも多少（実態数不明）見受けられ、域内観光振興の観点であれば、多少の可能性は残されていると思料。（但し、アスンシオン市内のホテルは、夏期休暇シーズンでも閑古鳥が鳴いているのが現実）

(2) パラグアイ側の実施体制上にかかる留意点

1) 先般、当国から「メルコスール地域別特設本邦研修」に参加し、帰国した当国政府観光局観光開発部長が当事務所に来訪したが、同人の本邦研修の経験からも日本人観光客誘致を可能とする JICA プロジェクトへの期待は非常に大。

2) 他方、当国のほとんどの政府機関は、自己収入財源を有する機関以外、財政的に著しく窮乏状態にあり、予算のほとんどが人件費である機関がほとんど。政府観光局についても同人の来訪時、いきなり当方に対し、プロジェクトの実施に先立ち、コンピュー

ター、プロジェクター、車輛等の機材供与要請があつたとおり、基本的な資機材すら無い状態と見受けられ、当国の政府観光推進機関として十分機能しているか疑問。また、当国政府全体が財政難にある中で当国観光部局に優先度が高く予算配分されているとは考えにくい。このため、当事務所としては、体制が十分ではない同機関に本プロジェクトの実施について過大な期待を抱かせることに懸念あり。このため、当国でプロジェクトを実施する際には、プロジェクトの投入規模には十分留意する必要あり。(先方の財政負担の困難さを予め承知しておく必要あり。)

(3) 国別事業実施計画との整合性

- 1) 当国も関係している現在実施中のメルコスール案件「メルコスール域内産品流通のための包装技術向上支援計画」は「競争力の強化」という開発課題の中で整理されているが、観光開発はパラグアイ国の国別事業実施計画の重点課題に含まれておらず、当国においては、優先的に対応すべき課題と位置付けられていない。このため右については、対メルコスール地域への政策的観点からの協力と整理する。

以 上

パラグアイ・スペイン間の科学・技術・文化協力 に関する第4回会合の協議録について

2002年12月3日、標記に関する政府間協議がなされ、ミニッツが交換された。署名者はスペイン国際協力事業団イペロアメリカ協力総局長と「パ」企画庁 Meyer 大臣である。協議内容は、第3回協議以降の協力成果のレビュー、2003-2006年(4年間)における二国間協力計画、国際機関を通じての協力、NGOを通じての協力などである。協議には、マリオ・ディアス公共政策・企画総局長、ルイス・アマリージャ国際協力課長が同行した。

協議録の要旨を詳細に記述する余裕はないが、重要点は以下のとおり。

1) 今後の協力では、「パ」政府が EDEP 後作成した PEES(「パ」経済社会戦略計画)が尊重されること、またスペイン第1計画において設定されたスペイン政府の以下の優先的分野が尊重されることが確認されている。

- I. Necesidades sociales básicas
- II. Inversión en el ser humano.
- III. Infraestructuras y promoción del tejido económico.
- IV. Defensa del medio ambiente.
- V. Participación social, desarrollo institucional y buen gobierno.

2) 文化・教育分野での協力を主体にしているが、生産分野での発展のための支援(APOYO AL DESARROLLO PRODUCTIVO)も含まれている。例えば、ONA への協力、競争力強化のための計画を充実させるための支援(Apoyo al sistema de calidad (ONA)、Apoyo al desarrollo de un plan de competitividad)が含まれている。それ故、今後スペインとの協力調整も視野に入れる必要がある。

3) その他では、観光開発の協力が目立つ(これまでも、スペインは、ドイツとともに、イエズス会関連の1600年代の古い遺跡の修復や博物館の建設に多大な協力をしてきた)。例えば、そのイエズス会の布教関連施設(映画「The Mission」でその存在は極めて有名になった)が6か所ある(アルゼンチン Misiones 州などにも残され、観光名所となっている)。それらの遺跡を巡行する「イエズス会街道」、「フランシスコ街道」、「フロンテラ街道」などの計画、さらにアスンシオン「鉄道中央駅での観光情報センター設置」計画などが言及されている。(イエズス会遺跡と観光開発については別途関連資料を提出予定。なお、このような街道構想は、ドイツの「ロマンチック街道」、スペインのコンポステーラへの巡業の道などが世界的に有名であり、それにあやかって観光化しようというもの。観光クラスターの開発でもある)。

4) その他の分野では、環境、国家制度・構造的な強化や良い統治などの分野での協力も含まれている。総じていえば、協力優先分野がかなり絞り込まれているが、ミニッツで言及されるプログラム・プロジェクトをみる限り極めて多くのサブ領域をカバーしている。詳細はスペイン語ミニッツを参照ありたい。

(注) 因みに、2000年度における全ドナー国・国際機関からの全贈与額(技術協力含む)に占めるスペインの協力が占める割合は6.8%であった。1位は日本(40.6%)、2位 USA(12.1%)、次いで BID(11.6%)、台湾(9.2%)、EU(8.4%)で、スペインは第6位であった。

参 考 : ミニッツの骨子など

ACTA DE LA REUNION DE LA IV COMISION MIXTA HISPANO- PARAGUAYA DE COOPERACION CIENTÍFICA, TÉCNICA Y CULTURAL

La Agenda de la Reunión se centró en los siguientes capítulos:

- Primero.- Revisión de los resultados alcanzados según lo acordado en la III Comisión Mixta de Cooperación Hispano-Paraguaya, en el período comprendido entre junio de 1999 y diciembre de 2002.
- Segundo.- Establecimiento del Programa de Cooperación Bilateral para el período 2003-2006.
- Tercero.- Cooperación derivada de las Cumbres Iberoamericanas de Jefes de Estado y de Gobierno.
- Cuarto.- Cooperación a través de organismos internacionales.
- Quinto.- Cooperación Española descentralizada.
- Sexto.- Cooperación Española no gubernamental.
- Séptimo.- Consideraciones finales.

PRIMERO - REVISION DE LOS RESULTADOS ALCANZADOS SEGÚN LO ACORDADO EN LA III COMISIÓN MIXTA DE COOPERACIÓN HISPANO-PARAGUAYA, EN EL PERIODO COMPRENDIDO ENTRE JUNIO DE 1999 Y DICIEMBRE DE 2002.

- I. Modernización institucional, descentralización y refuerzo de las capacidades del país.
- II. Educación, capacitación, formación de recursos humanos, ciencia y tecnología.
- III. Modernización de los sectores productivos y de infraestructura.
- IV. Refuerzo de la cooperación cultural realizada por la Agencia Española de Cooperación Internacional.

SEGUNDO - ESTABLECIMIENTO DEL PROGRAMA DE COOPERACIÓN BILATERAL PARA EL PERÍODO 2003-2006.

Ambas Delegaciones acordaron también aplicar una política de concentración temática en el diseño del nuevo Programa de cooperación bilateral para el período 2003-2006, tomando como referencia las líneas estratégicas establecidas en el Plan Estratégico, Económico y social de Paraguay (PEES):

- I. Desarrollo productivo, competitividad e inversiones.
- II. Desarrollo humano y reducción de la pobreza.
- III. Desarrollo institucional y modernización del Estado.
- IV. Equilibrio macroeconómico.

Asimismo, el nuevo Programa bilateral respetará las prioridades sectoriales establecidas en el *Primer Plan Director de la Cooperación Española*:

- V. Necesidades sociales básicas.
- VI. Inversión en el ser humano.
- VII. Infraestructuras y promoción del tejido económico.
- VIII. Defensa del medio ambiente.
- IX. Participación social, desarrollo institucional y buen gobierno.

I. NECESIDADES SOCIALES BÁSICAS

1. EDUCACION

- 1.1. Programa de Educación Básica Bilingüe de Jóvenes y Adultos de Paraguay (PRODEPA MO'É PYAHY)
- 1.2. Programa de formación en tecnologías de la información y de la comunicación, a través de las Aulas Mentor.
- 1.3. Educación a distancia: Mejora de la calidad educativa.
- 1.4. Educación inicial: Sistema de promoción de la infancia.

2. CULTURAS AUTÓCTONAS

- 2.1. Estrategia de apoyo a los pueblos indígenas de Paraguay
- 2.2. Programa de interculturalidad y educación multilingüe.

3. OTROS TEMAS.

- 3.1. Fortalecimiento y modernización del Sistema Nacional de Salud.
- 3.2. Programa de Apoyo al Sistema Nacional de Emergencia.

3.3. Programa de abastecimiento de agua potable.

II. INVERSIÓN EN EL SER HUMANO

1. COOPERACION EDUCATIVA.

1.1. Programas de Becas de la Cooperación Española.

1.1.1. Programa general de becas del Ministerio de Asuntos Exteriores ("Becas MAE-AECT").

1.1.2. Becas de la Fundación Carolina ("Becas Carolinas").

1.1.3. Programas de Becas de la Dirección General de Universidades del Ministerio de Educación, Cultura y Deporte.

1.2. Cooperación Técnica, Universitaria y Científica.

1.2.1. Programa de Cooperación Interuniversitaria.

1.2.2. Programa iberoamericano de formación técnica especializada.

1.2.3. Programa de cooperación científica con Iberoamérica.

1.3. Otras actividades de cooperación educativa.

1.3.1. Programa de Centros de Convenio del Ministerio de Educación, Cultura y Deporte.

1.3.2. Programa de cooperación educativa con Iberoamérica.

1.3.3. Otras actividades.

➤ Programa de intercambio de expertos en Educación.

➤ Promoción de la lengua española.

➤ Intercambio de información en materia educativa.

2. PROGRAMA DE PRESERVACIÓN DEL PATRIMONIO CULTURAL

2.1. Escuelas Taller

2.2. Restauración de Monumentos

3. COOPERACION E INTERCAMBIO CULTURAL

3.1. Protección de bienes culturales

3.1.1. Legislación sobre protección de bienes culturales

3.1.2. Archivos, Museos y Bibliotecas

3.1.3. Propiedad intelectual y derechos de autor

3.1.4. Programa de ayudas a la formación de profesionales iberoamericanos

3.2. Centro Cultural Español "Juan de Salazar"

3.3. Difusión Cultural

3.3.1. Arte español para el exterior

3.3.2. Música española para el exterior

3.3.3. Cine español para el exterior

3.4. Foro Universal de las Culturas – Barcelona 2004-01-22

II. INFRAESTRUCTURAS Y PROMOCIÓN DEL TEJIDO ECONÓMICO

1. APOYO AL DESARROLLO PRODUCTIVO

- 1.1. Programa de desarrollo productivo de las colonias campesinas
- 1.2. Proyectos de apoyo a centros de formación y entrenamiento agrícolas
- 1.3. Programa de Microcrédito
- 1.4. Apoyo al sistema de calidad (ONA)
- 1.5. Apoyo al desarrollo de un plan de competitividad
- 1.6. Programa de formación profesional y de apoyo a las pequeñas iniciativas productivas
- 1.7. Programa de fomento del empleo y apoyo a un Sistema Nacional de Empleo

2. APOYO AL DESARROLLO TURÍSTICO DE PARAGUAY

2.1. Turismo

- Creación de un Centro de Información Turística en la Estación Central del Ferrocarril.
- Camino Franciscano
- Camino Jesuítico
- Camino de Frontera
- Museo "Reina Sofía" y puesta en valor de la Cantera de Jesús y del Museo Lítico en las Reducciones de Trinidad.
- Preservación del lago Ypoá y los Humedades del Ñeembucú.
- Plan de manejo ambiental de la serranía de San Luis: Desarrollo económico y social de las comunidades que habitan la serranía y su área de amortiguamiento, con énfasis en la generación de un modelo de conservación ambiental del territorio.

2.2. Programa de artesanía y de la pequeña industria manufacturera

IV. DEFENSA DEL MEDIO AMBIENTE

1. Proyecto de conservación y revitalización del Jasuka Venda.
2. Proyecto de desarrollo ambiental de la población circundante al Lago Ypoá y la zona de influencia de los humedales de Ñeembucú.
3. Proyecto de desarrollo ecoturístico del Parque Nacional de Ybycuí.
4. Ordenamiento y desarrollo territorial del Paraguay.

X. PARTICIPACIÓN SOCIAL, FORTALECIMIENTO INSTITUCIONAL Y BUEN GOBIERNO

1. Modernización del Estado.
2. Apoyo técnico a la Secretaría Técnica de Planificación.
3. Programa de capacitación para jueces y magistrados iberoamericanos “Aula Iberoamericana”.
 - Programa de jóvenes cooperantes.
 - Programa de cooperación internacional del Instituto de la Mujer.

TERCERO - COOPERACION DERIVADA DE LAS CUMBRES IBEROAMERICANAS DE JEFES DE ESTADO Y DE GOBIERNO.

CUARTO - COOPERACIÓN A TRAVÉS DE ORGANISMOS INTERNACIONALES.

- Programa de cooperación con la Organización Internacional del Trabajo (OIT).
- Programa de Erradicación del Trabajo Infantil en Iberoamérica (IPEC).
- Proyecto regional de Cooperación Técnica para la Formación en Economía y Políticas Agrarias y de Desarrollo Rural en América Latina (FODEPAL), con la Organización de las Naciones Unidas para la Agricultura y la Alimentación (FAO), cofinanciado por la AECI.
- Programa de Salud en Iberoamérica, con la Organización Panamericana de Salud (OPS).
- El Programa de Voluntarios.

QUINTO - COOPERACIÓN ESPAÑOLA DESCENTRALIZADA.

SEXTO - COOPERACION ESPAÑOLA NO GUBERNAMENTAL.

SÉPTIMO - CONSIDERACIONES FINALES.

////////////////////////////////////
/照会先: 企画庁 TEL 021-450 422(代表)、TELFAX 021 - 445-780 中内清文まで。
Celular particular (0981)252-780、E-mail : k-naka@rids.gov.py

planteó la necesidad de reforzar el SNPP, fortaleciendo sus centros de capacitación y asumiendo la actualización de la formación profesional de sus docentes.

El Ministerio de Trabajo y Asuntos Sociales de España, en coordinación con la AECI, podrá prestar apoyo técnico, previa identificación de los proyectos concretos.

1.7. Programa de fomento del empleo y apoyo a un Sistema Nacional de Empleo

Ambas Delegaciones consideraron que los avances en este sector son claves para iniciar el proceso de Reforma del Estado que necesita Paraguay, así como su reactivación económica. De este modo, la Delegación paraguaya solicitó el acompañamiento de la Cooperación Española para establecer, a través de la asistencia técnica de expertos del Ministerio de Trabajo y Asuntos Sociales o del Instituto Nacional de Empleo de España, el diseño de una política nacional de empleo que contemple la formación de los recursos humanos en el uso de las nuevas tecnologías y su adecuación a los nuevos modos de producción. Se estudiará la posibilidad de diseñar un sistema nacional de empleo.

El Ministerio de Trabajo y Asuntos Sociales de España, en coordinación con la AECI, podrá prestar apoyo técnico, previa identificación de los proyectos concretos.

2. APOYO AL DESARROLLO TURÍSTICO DE PARAGUAY.

2.1. Turismo

La Delegación paraguaya puso de relieve la importancia que su Gobierno concede al desarrollo de la oferta turística del Paraguay. En el contexto socio- económico de crisis de Mercosur, Paraguay enfoca el turismo como una herramienta catalizadora para la recuperación de la identidad cultural (turismo cultural y promoción), la protección y recuperación del medio ambiente (turismo ecológico) y la generación de empleo.

La Delegación paraguaya añadió que la razón por la que se propone reunir diferentes acciones de la Cooperación Española bajo esta línea directriz se fundamenta, principalmente, en el fuerte vínculo que une las raíces históricas y culturales de los dos países. Además, ambas Delegaciones reconocieron la larga trayectoria, experiencia y vocación que tiene España en este área.

En este contexto, la Delegación paraguaya manifestó su interés en contar con el apoyo de la Cooperación Española, en especial de la AECI y de la Cooperación Española Descentralizada, en la realización de los siguientes proyectos, algunos de los cuales ya aparecen reflejados en otros epígrafes pero que, no obstante, se relacionan aquí por la importancia de su componente turístico:

- Creación de un Centro de Información Turística en la Estación Central del Ferrocarril.
- Camino Franciscano.
- Camino Jesuítico.
- Camino de Frontera.

- Museo "Reina Sofía" y puesta en valor de la Cantera de Jesús y del Museo Lítico en las Reducciones de Trinidad.
- Preservación del Lago Ypoá y los Humedales del Ñeembucú.
- Plan de manejo ambiental de la serranía de San Luis: Desarrollo económico y social de las comunidades que habitan la serranía y su área de amortiguamiento, con énfasis en la generación de un modelo de conservación ambiental del territorio.

La Delegación española informó sobre la convocatoria anual, por parte de la Secretaría de Estado de Comercio y Turismo, de las "Becas Turismo de España" para la realización de estudios de post-grado sobre materias turísticas en universidades o centros españoles oficiales u oficialmente reconocidos.

En esta misma línea, la Secretaría General de Turismo puso a disposición de las autoridades turísticas paraguayas el apoyo y la asistencia técnica necesarios para modernizar y reforzar las instituciones turísticas.

La Secretaría General de Turismo de España, en coordinación con la AECI, podrá prestar apoyo técnico para el desarrollo de proyectos turísticos concretos, así como para la realización de las acciones formativas de naturaleza turística que se consideren oportunas.

2.2. Programa de artesanía y de la pequeña industria manufacturera.

Ambas Delegaciones reconocieron que el desarrollo de la pequeña industria y de la artesanía en Paraguay resulta de gran importancia para el fortalecimiento del tejido industrial y para la creación de puestos de trabajo.

La Delegación española informó que el Ministerio de Ciencia y Tecnología viene realizando, en colaboración con la AECI, un programa de desarrollo artesanal en Iberoamérica que comprende las áreas de gestión empresarial, innovación tecnológica, desarrollo del diseño y comercialización, en el cual podrán continuar participando técnicos y expertos paraguayos. También, de modo particular, el Ministerio de Ciencia y Tecnología ofreció la posibilidad de colaborar en la realización de un curso para el mejoramiento de las empresas artesanas, tanto en su vertiente productiva, como en su vinculación con los oficios artesanos relacionados con la conservación del patrimonio histórico y cultural.

La Delegación paraguaya manifestó su interés en la colaboración en el sector de la pequeña industria manufacturera (calzado, curtidos, piel y madera). En este sentido, los Institutos Tecnológicos de España estarían en disposición de considerar la cooperación con sus homólogos de Paraguay, para el establecimiento de programas de desarrollo tecnológico y la incorporación de tecnologías apropiadas.

IV. DEFENSA DEL MEDIO AMBIENTE.

La participación de Paraguay en la reciente Cumbre sobre Desarrollo Sostenible, celebrada en Johannesburgo (agosto de 2002) ha supuesto para este país el compromiso con el Plan de Acción adoptado en dicha Cumbre, la Agenda 2015, que supone ya la plena consideración de los efectos medioambientales como factor referencial de las políticas nacionales.

企画庁Meyer大臣との協議

— 「パ」国家文化遺産の保全キャンペーンとボランティア派遣要請について—

2月3日Meyer大臣の要請で協議を行った。骨子は以下のとおり。

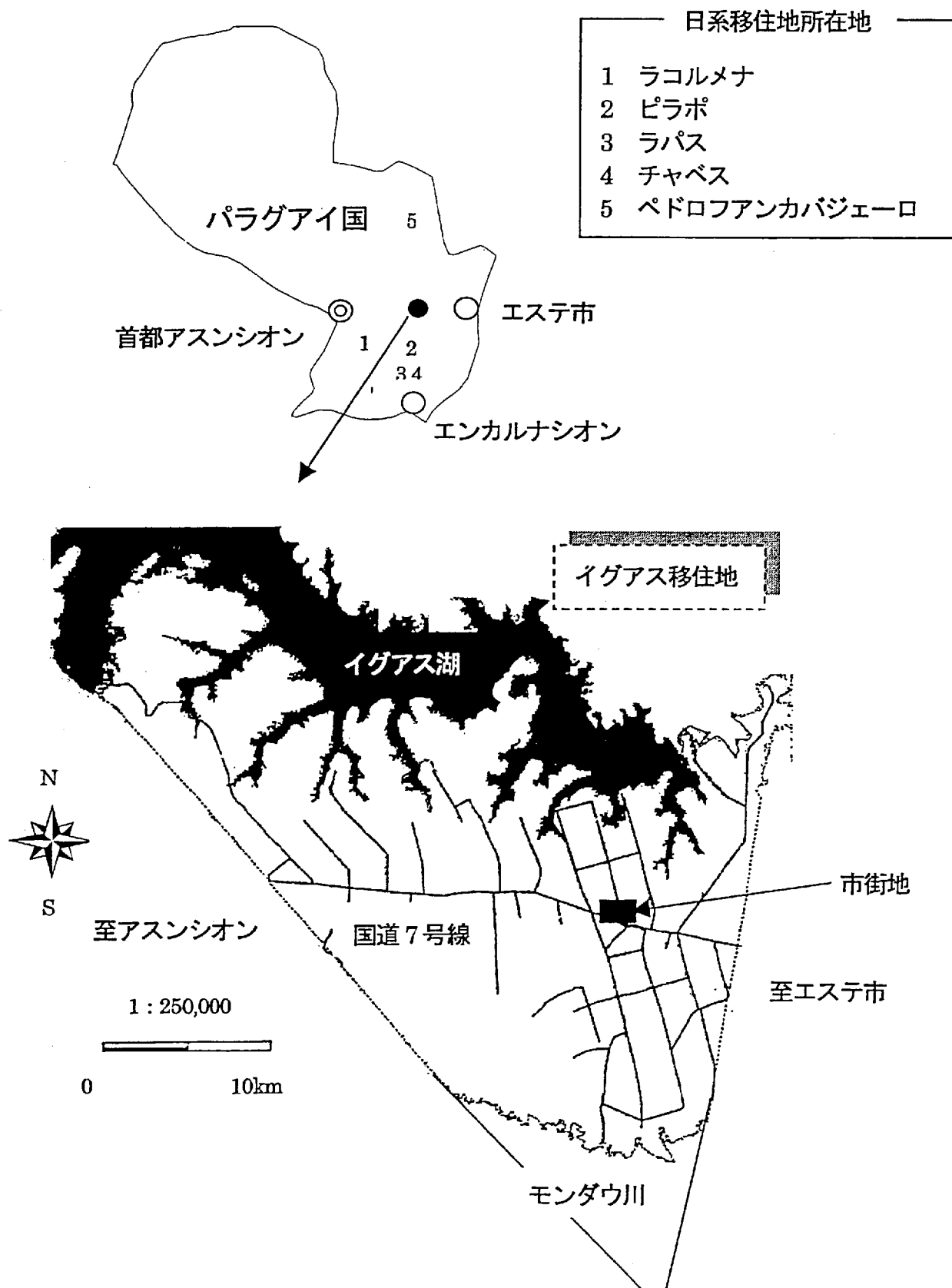
1 イエズス会遺跡・博物館画像のインターネットによる無料提供システムについて

参考資料No.245 (2003.1.27) にて上記システムの実例を示すため150余りの文化遺産画像を編集したが、先般企画庁からマキ大統領にプレゼンテーションされたとのこと。なお、STPでは同画像を政府公式ページに掲載すべく準備中である。

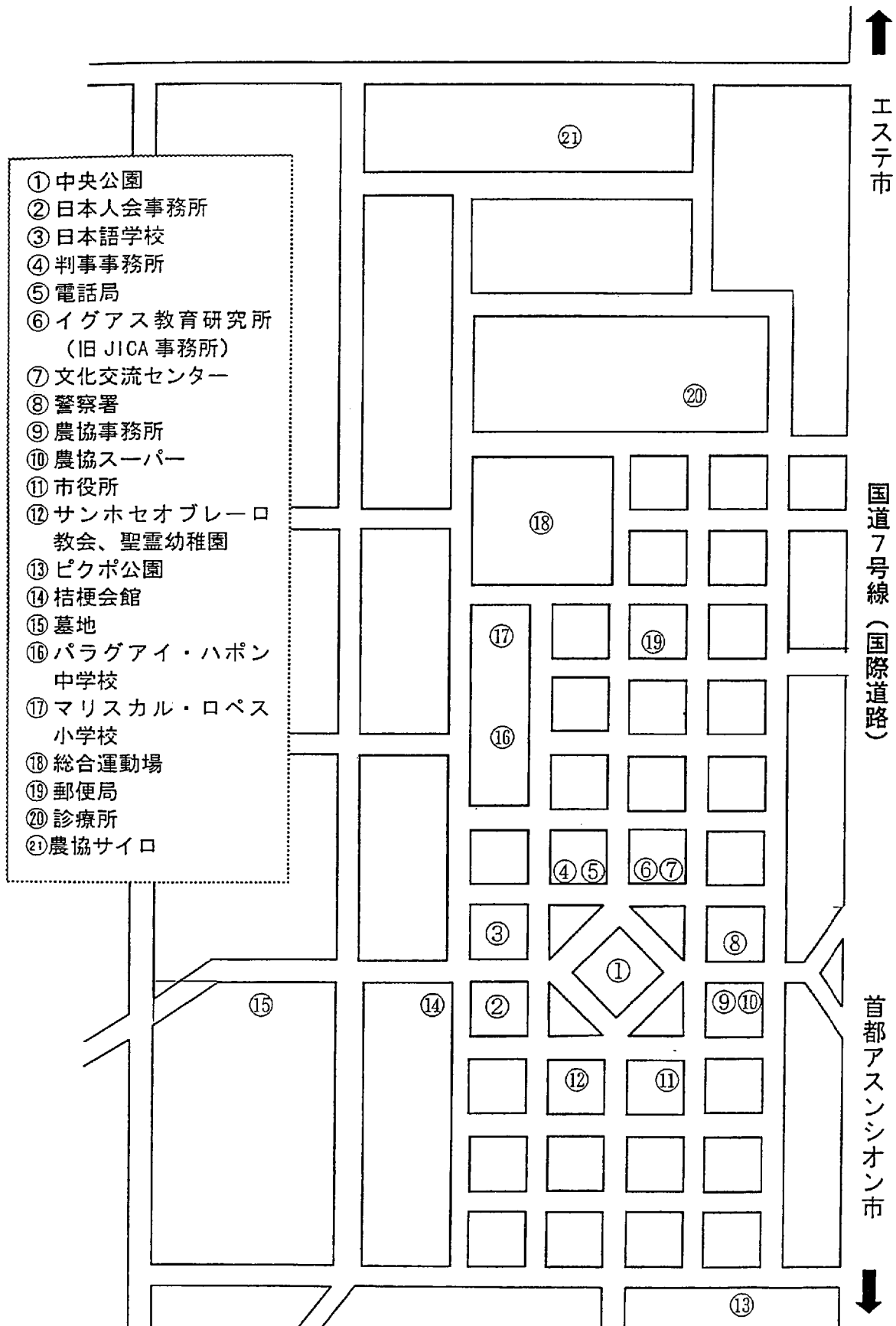
2 Reducciones Jesuíticas関連国家文化遺産保存キャンペーンの実施およびJICAへの協力要請について

- 1) 企画庁は関連機関(教育省など)と協力して標記キャンペーンを進めようとしている。
- 2) 極めて貴重な16-17世紀のReducciones Jesuíticas関連国家文化財産の保存・修復などに関する法案を策定する予定である(現在大統領とも協議中。大臣はそれらの財産の逸散を深く懸念している)
- 3) それらは国家に財産権があるもので、保存・修復・保護を強化したい(背景には観光クラスター推進、「フランシスコの道」などの観光ルートの振興が念頭にある)。
- 4) 具体的には、全国主要な6-7つの文化遺産を所蔵展示する博物館について
 - 文化遺産の発掘(観光資源の発掘・identificacionでもある)・確認
 - 文化遺産の国家登録制度にかかる成案、登録制度の確立とその登録実施(逸散の防止など)
 - アナログ写真化
 - デジタル写真化
 - 遺産の公式説明書き(ficha)の作成
 - 国家文化遺産PC登録
 - インターネットによる世界への広報
 - 写真集などの発刊
- 5) ついては、専門的知識のあるJICAボランティア(青年でもシニアでもよい)を是非派遣して、このキャンペーン実施と技術的作業に支援を願いたい。必要な機材は今後煮詰める。

イグアス移住地地図

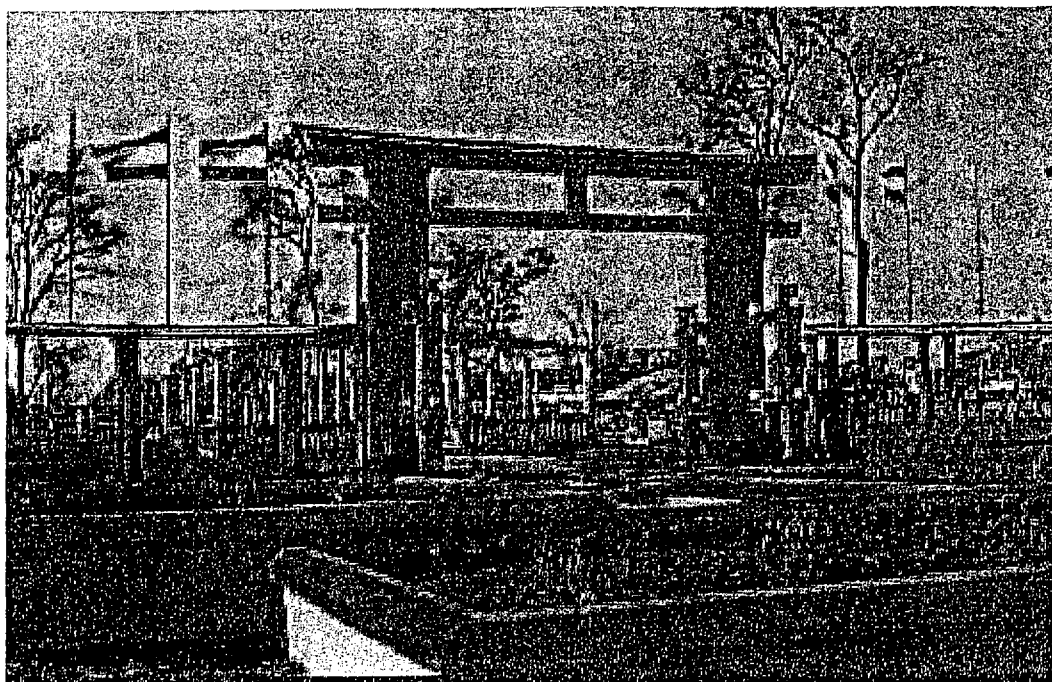


イグアス市街地地図



イグアス日本人会

2002年概況



▲ 日本人会事務所前の中央公園に建つ大鳥居

社団法人イグアス日本人会
ASOCIACIÓN JAPONESA DE YGUAZÚ

ここアルトパラナ県イグアス市は、パラグアイの首都アスンシオンから東に 286km、ブラジルとの国境の街シウダ・デル・エステ市から西に 41km の地点に中心地が位置しています。人口約 12,000 人の町で、平均標高 250m、総面積は 87,763ha（うち、約 10,000ha は湖に水没）。そのほとんどは農牧地となっています。市の中央を、アスンシオン～ブラジルのフォス・ド・イグアス市間を結ぶ国道 7 号線が走り、また中心地から 10km ほどの所には国際空港もあるなど、交通の便に恵まれた場所です。

当地は 1961 年、国際協力事業団（JICA）の前身である日本海外移住振興株式会社により調査・開発された日系移住地で、今年の 8 月 22 日が入植 40 周年を迎えます。64 年から 65 年にかけて、生活上の必要性から、道路・教育・治安の各委員会が相次いで設立されました。こうした委員会活動を基盤として、66 年 9 月、有志によりイグアス移住地運営協議会が開催されています。この会において、日本人会設立が正式に協議され、67 年 12 月 10 日に「イグアス自治会」が発足。この自治会には、教育・治安・道路・文化・営農促進などの委員会が設けられ、移住者たちによる自治が本格的に開始されました。その後、78 年 5 月 7 日、組織の名称を現在の「イグアス日本人会」に改称。80 年 12 月 2 日には社団法人として認可されています。

そして、92 年 9 月末、JICA イグアス事業所が閉鎖され、アスンシオンの事務所に統合。これにより、地域における当会の役割は、より一層拡大されました。生活環境整備・教育・治安など、その責任は日系人にとどまらず、地域住民全体からの要望に応え得るものが期待されています。また、地域開発整備に伴う経費の助成を JICA や日本政府に要請するという重責を担っているため、堅実な管理・運営が求められています。

今後は、運営母体が 1 世から 2 世、3 世へと徐々に移行していきます。それに伴う諸問題（日本語からスペイン語へなど）、および地域の大多数を占める非日系人と連携した市制づくりが、当会の大きな課題として挙げられます。

◆ 日本人会のあゆみ ◆

1961 年 8 月	第 1 次移住開始／フラム・チャベス移住地より 14 家族	1986 年 8 月	ピクポ公園用地造成・植林
1963 年 8 月	日本より第 1 陣移住／7 家族	1987 年 4 月	診療所運営開始(JICA より移管)
9 月	イグアス日本語学校開設	8 月	採石場敷地購入
1964～65 年	道路・教育・治安各委員会発足	1989 年 6 月	土地不法占拠問題で軍隊導入
1967 年 12 月	上記委員会を統合し「イグアス自治会」発足、事務局設置 移住者 100 世帯を越える	1990 年 6 月	イグアス婦人部、日本人会に所属 市街地上水道工事着工 新墓地用地造成
1970 年 5 月	電話通話開始 (ダイヤル自動化 83 年)	1991 年 8 月	入植 30 周年記念式典
1974 年 2 月	電化工事測量開始、翌年完成	1992 年 9 月	JICA イグアス事業所閉鎖、 アスンシオン事務所に統合
1980 年 9 月	イグアスに市制が敷かれる	1994 年 9 月	入植 30 周年記念誌発行
12 月	「イグアス日本人会」、内務省より社団法人として認可	1995 年 9 月	イグアス診療所増改築工事完了
1981 年 8 月	入植 20 周年記念式典	1996 年 7 月	ピクポ公園第 1 次造成完了
	日本人会会館完成	11 月	パラグアイ入植 60 周年記念式参加
1984 年 9 月	老人会結成 名称「鶴寿会」	1998 年 2 月	モンダウ橋完成
		2000 年 8 月	市街地道路石畳舗装工事着工

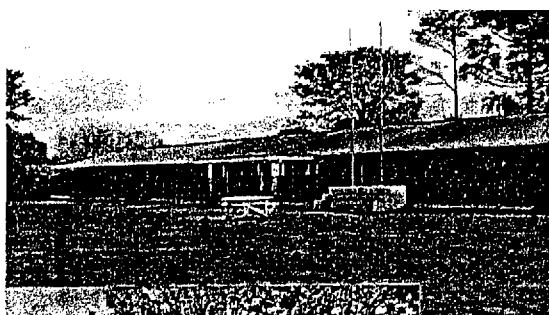
目で見る

日本人会の

日本人会事務局 →

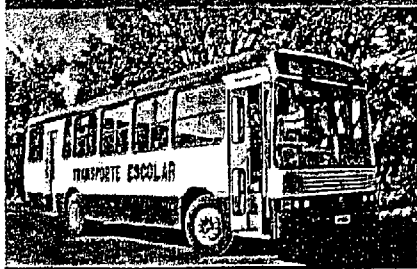
日本人会の事務局業務は、下記のように多岐にわたっています。日本国大使館関係業務（戸籍関係諸届け在留証明・ビザ関係諸届け他）居住証明他書類作成・翻訳、郵便物取り扱い、サンパウロ新聞・日系ジャーナルなどの新聞購読取り扱い、電気・水道料金などの窓口取り扱い、各事業部門の会計・経理事務、各種行事の諸準備、コピー取り扱いおよび文書作成など。

(職員 13 名)



← 日本語学校

イグアス日本語学校は、入植開始から2年後の63年、30名の生徒でスタートしました。現在は小学部6年（週3回半日）・中学部3年（週2回半日）で生徒数161名。小学部には非日系人対象の1年制特別コース（週3回半日）が90年より併設され、毎年十数名の子どもたちが日本語を学んでいます。（教師・職員12名）

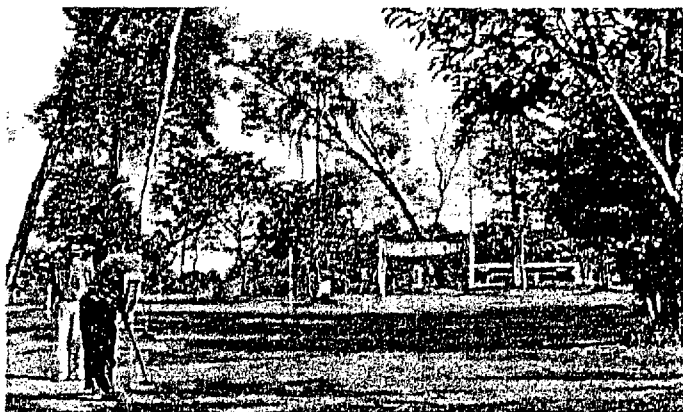


← スクールバス

74年より運行を開始したスクールバス。日本語学校の生徒だけでなく、スペイン語学校の生徒たちも広く利用しています。学校が2部制のため、朝1回、昼2回、夕方1回の4回運行。利用者は、毎日延べ200人を超えています。乗車賃1回1200Gs。

ピクポ公園 →

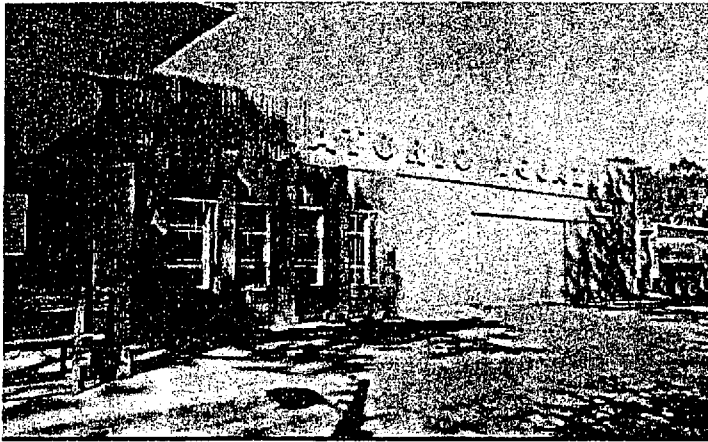
市街地に隣接するピクポ公園。公園内にはパークゴルフ場、子ども用プール、サッカー場、バレーボールコートがあり、市民の憩いの場となっています。特にパークゴルフは、愛好会も活動しており、老若男女がプレーを楽しんでいます。



はたらき

診療所 ↓

移住地開設当初から JICA が運営していた診療所は、87 年 4 月から日本人会に管理・運営が移管されました。現在契約医師 4 名（外科・内科・小児科・歯科）が常勤または半日勤務しています。ほかに、看護婦・看護婦助手 7 名、検査技師 1 名、レントゲン技師および救急車運転手 1 名、事務員 1 名が働いています。



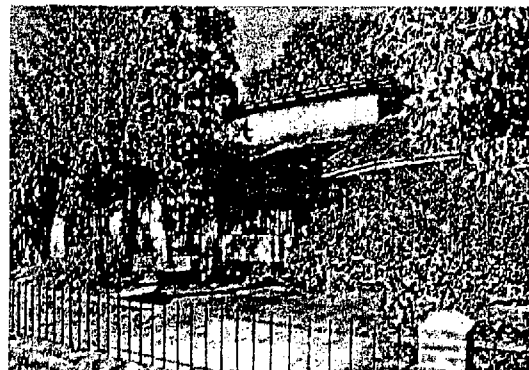
↑ 水道タンク

92 年より市街地では上水道が利用可能になりました（現在 247 軒利用）。現在、2 本の深井戸（250m）と大型高架水槽タンク（10 万 l）、地上予備タンク（15 万 l）がフル回転しています。



← 採石場

市街地西側の国道 7 号線近くにある採石場。大変良質の石を採集でき、砂利・割石・コンクリート各種製品を販売しています。採石場は日本人会の大きな収入源です。94 年にはバスクラ（計量機）を導入して能率を上げ、以前にも増して収入を上げています。



イグアス教育研究センター →

イグアス日本語高校（週 1 回 3 時間授業、1~3 年合同 / 日本語・木工・洋裁など）をはじめ、教育懇談会など幅広く使用されているイグアス教育研

日本人会の概要

当会は、イグアス市在住の日本人および日系人（原則として世帯主）による会員制の組織で、各種事業運営や会員サービス業務を行っています。

- ▲ 会員数 個人会員 179 名（2000 年 12 月現在）
 賛助会員 4 団体（日系進出企業）

*イグアス市の世帯数

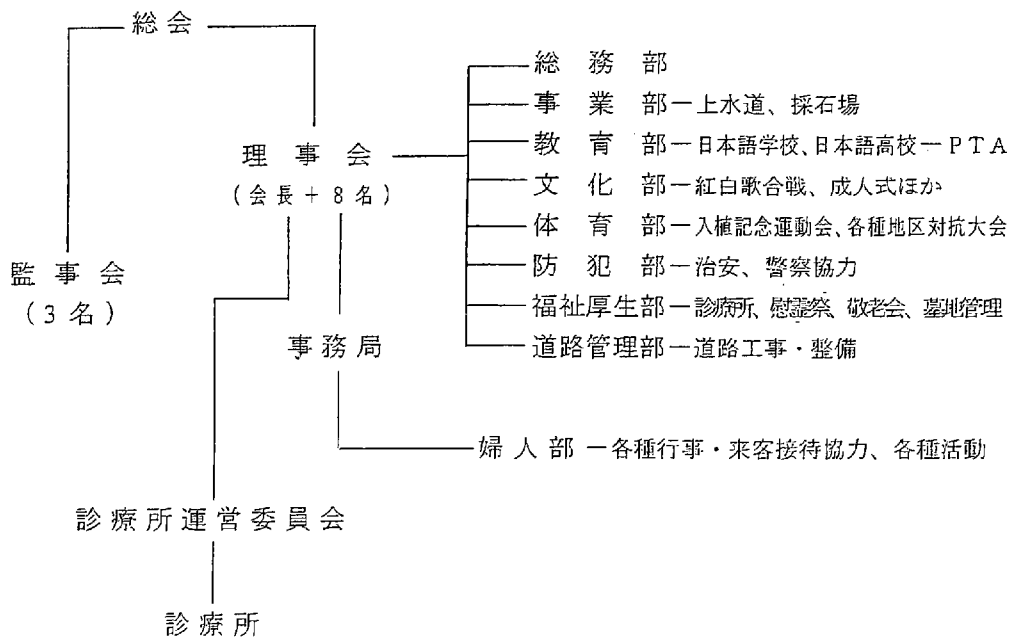
日本人・日系人 約 200 世帯／900 名程度
 (1 世：45%、2 世：50%、3 世：5%)
 非日系人 約 1,800 世帯／11,000 名程度

- ▲ 理事会 年 1 回開催される総会の中から 12 名の理事・監事が選出され、総会後の理事の互選で会長が選出されます。
 (任期 2 年／半数ごと毎年改選)
- ▲ 地区制 日本人・日系人世帯会員は、居住地域によって下記の 6 つの地区に分けられており、各地区から代表を出して理事のもとで委員会を組織し、行事・管理・運営などが進められています。また、地区内の運営自治は地区長以下委員によってなされています。

*地区名

- ・ グロリア（中央市街地） ・ 協 和 （東南部／市街地隣接）
- ・ 東 栄（東 部） ・ ピクポ （西部／市街地隣接）
- ・ 美 隆（西 部） ・ モンダウ（東南部）

日本人会組織図



日本語学校・日本語高校の児童・生徒数 (2000年度) 単位：人

学年	小 学 校							中 学 校			小・中	高校
	特別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	合計	1~3年
男子	1	5	7	12	9	13	11	7	6	7	78	7
女子	5	8	5	12	11	11	10	8	7	6	83	13
合計	6	13	12	24	20	24	21	15	13	13	161	20
*	6	8	5	8	10	11	6	3	1	2	60	0

* 印は家庭内で日本語を使用しない児童・生徒。特別コース以外の小・中学生で、家庭において日本語を使用していない者の割合は年々増えており、多くの家庭では日西混合で会話がなされています。

採石場販売収入

(1999年度) 単位：Gs.

種 別	製品名	売上高	小 計	総売上
採 石 部 門	割 石	15,587,895	715,975,394	778,613,144
	砂 利	512,553,877		
	トスカ・ボルボ*	187,833,622		
コンクリート製品	ポ ス テ	2,939,400	22,637,750	
	ヒ ュ ー ム 管	14,181,700		
	そ の 他	5,516,650		
受け取り開発料		40,000,000	40,000,000	

*トスカ・ボルボは道路用資材として、ポステは堀用の杭として用いられるもの。

診療所／科目別診療件数

(1999年度) 単位：人

区 分	日 系 人			非 日 系 人			合 計
	外 来	入 院	小 計	外 来	入 院	小 計	
内科・小児科	411	31	442	1,354	20	1,374	1,816
外科・整形外科	113	5	118	443	7	450	568
産 婦 人 科	148	3	151	545	2	547	698
皮膚・泌尿器科	30	0	30	198	1	199	229
耳鼻・咽喉科	35	0	35	74	1	75	110
眼 科	4	0	4	3	0	3	7
歯科・口腔科	25	0	25	42	0	42	67
精神・神経科	5	3	8	119	0	119	127
健康診断・予防 接種・その他	3,274	2	3,276	5,303	0	5,303	8,579
合 計	4,045	44	4,089	8,081	31	8,112	12,201

当地在住日系人の出身地別世帯数

(2000年12月現在)

出身地	世帯数	出身地	世帯数	出身地	世帯数
高知	27	兵庫	5	徳島	2
岩手	25	静岡	4	山梨	1
北海道	19	長野	4	神奈川	1
愛媛	11	香川	3	島根	1
山形	10	佐賀	3	山口	1
福岡	7	東京	3	奈良	1
秋田	6	長崎	3	沖縄	1
熊本	6	宮城	3	埼玉	1
群馬	6	宮崎	3	三重	1
広島	6	青森	2	京都	1
福島	6	富山	2	パラグアイ	52
大阪	5	新潟	2	ブラジル	3
鹿児島	5	愛知	2	その他	2
鳥取	5	大分	2	合計	253

*世帯主の出身地をもとにまとめてあります(2000年度の実態調査表より)。

▲ 日本人会の個人負担会費について(2000年度会費負担金収入予算額 87,705,000 Gs.)

- ・基本負担額：1会員年間 240,000 Gs.
- ・土地所有面積による負担額：農耕地 1 haにつき年間 1,500 Gs.
市街地・小農区 1区につき年間 36,000 Gs.
- ・治安分担金：基本分担金 1会員 年間 50,000 Gs.
基本額に会費総額の 30%を加算

日本人会と関係の深い組織

イグアス農業協同組合



61年に発足。現在、組合員の農産物取り扱い以外に、預金の取り扱い、スーパー・ガソリンスタンド経営などを手がけ、市民に広く利用されています。

イグアス市役所



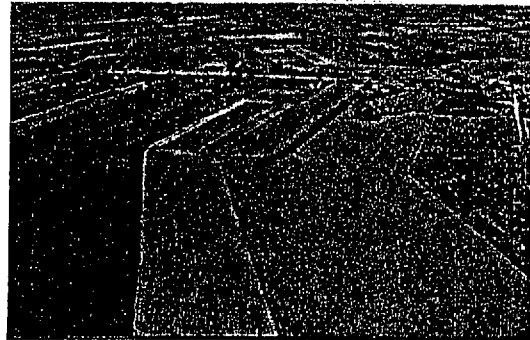
80年に発足。パラグアイ政府や県との密接な関係を築いており、それらからの資金援助などをもとに、福祉や教育の分野への支援を行っています。

日本人会会員が所有する土地面積の状況

所有面積 (ha)	戸数	全体比 (%)
0～50	79	43.2
51～100	28	15.3
101～200	34	18.6
201～300	20	10.9
301～400	12	6.5
401～500	4	2.2
501～600	2	1.1
601～700	2	1.1
701～800	0	0.0
801～900	0	0.0
901～1000	0	0.0
1001～1300	2	1.1
合 計	183	100.0

近年、会員では自営業や会社勤務、また日本へ行く人の割合が増えてきています。ですが、やはり主流は農業でその多くが大豆作生産に携わっています。その平均作付面積は200haほど。市街地から一步出ると、雄大な大豆畑を見ることができます。

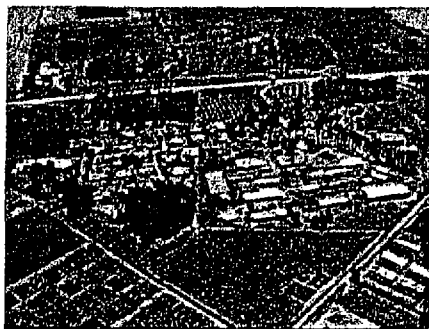
* 2000年度の土地利用状況報告書をもとに作成しています。
(2000年1月現在)



上空から見た大豆畑 →

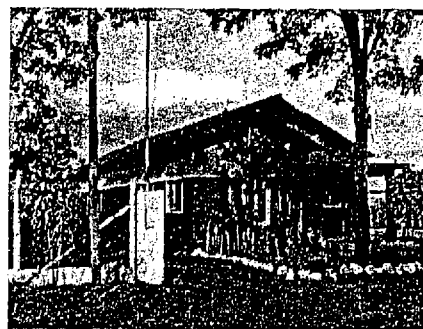
CETAPAR

(パラグアイ農業総合試験場)



JICA 直営の試験場。畑作や野菜、畜産の生産技術に関する研究をはじめ、土壌・肥料および作物病理、害虫の分析や研究などを行っています。

イグアス警察署



日本人会には防犯部があり、警察に協力して治安にあたっています。また、日系人と非日系人で組織する警察協力委員会があり、管理の援助・治安協力をを行っています。



▲ 上空から見た市街地

イグアス日本人会2001年概況
2001年1月1日発行

社団法人イグアス日本人会
ASOCIACIÓN JAPONESA DE YGUAZÚ
DISTRITO YGUAZÚ Km41
ALTO PARANA - PARAGUAY
TEL / FAX (0632) 20 243
Email : nikkaiygpy@foznet.com.br

RCVD

JICA OFFICIAL FACSIMILE MESSAGE

3.(9)

**URGENT**

NO. PG / 3R- 04 / PAGE 1 / 5

DATE: 13 MAY 2003 /

To: MD of 3R 中南米部長

From: RR of PG(パラグアイ事務所長)

C.C./ I sent to: MD of TIC(東京国際センター), RR of AG, BR, BRSP(アルゼンティン、ブラジル、サン・パウロ)

Subject: パラグアイにおける「観光国際会議」にかかる情報提供について(「メルコスール観光振興プロジェクト形成調査」関連)

 Requests Pls. reply For your info Others

Ref. No. (YOURS)

(OURS) PG/3R 028(H15.5.2)号

Please transfer to:

冒頭貴電にて連絡した国際会議に関し、別添のとおり、当地の新聞に紹介記事が掲載されましたので、和文要約を添付の上、報告いたします。(往電に記載した“ El Comité del MERCOSUR para Japón :対日本メルコスール委員会 ” については、特に言及なし。)

なお、本会議の詳細については、パラグアイ観光局 (SENATUR) から参考資料を入手次第、追って報告いたします。

以上

別添1: 関連新聞記事(和文要約)

2: 関連新聞記事(西文)

NOTICE: If you have received this communication in error, please notify the sender immediately.
Thank you for your assistance.

3394239

abc_color(*1) 新聞記事要約

(1) 2003.5.12 付 経済面

タイトル：「地方の観光（振興）が本日開始されるセミナーの一つのテーマ」

(2) 2003.5.13 付 経済面

タイトル：「アスンシオンにおける観光関係（会議）」

(以下、両記事の本文要約)

・5/12,13の2日間、アスンシオンにおいて「地方の観光国際セミナー、及び第40回 世界観光会議 アメリカ（中米・南米）委員会」が Yacht y Golf Club Paraguayo において開催。

・初日のメインイベントは、世界観光機構(*2)、パラグアイ観光局 (SENATUR)、パラグアイ自動車ツーリングクラブ (Touring y Automóvil Club) (*3)、パラグアイ地方観光協会 (APATUR) が主催する、地方の観光（振興）、今後の観光関連産業での雇用の創出、そして国の観光資源の保全についての国際セミナーである。

本セミナーでは、パラグアイ国内レベルにとどまらず、中南米及びスペインの、観光に知見のある政府関係者の発表や、地方観光協会や旅行代理店が実施する観光事業についても発表される予定。

セミナー参加に関心のある者は、観光局 (SENATUR) もしくは直接会場で申し込みが可能。

・2日目のメインイベントは「世界観光機構によるセッション」で、同機構の事務局長 Francesco Frangialli を始めとして、中南米（ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、エルサルバドル、スペイン）の観光大臣、及び観光事業に携わる政府関係者（ハイチ、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、ペルー、プエルトリコ、ウルグアイ）が出席する予定。

このセッションを含む午後の会議では、上記の国を含めた30カ国以上の国の観光の現状や今後の見通し、また観光業の再活性化を目指した各国の方針や戦略について協議される予定。

*1 abc-color・・・・・・パラグアイの主要な日刊紙の一つ。

*2 世界観光機構(WTO)・・・・139の国と地域、350以上の賛助加盟員が加盟する観光分野の世界最大の国際機関。1975年1月に発足し、2年に1度の総会開催をはじめ観光振興、環境と観光開発の調和、技術協力の分野で活動を行っている。本部はスペインのマドリッド。

*3 パラグアイ自動車ツーリングクラブ・・・・カーレースの主催、故障車のレッカー作業、国際免許の発行、など一連の車輛サービスを行う民間機関。

以上

ENCUENTRO DE COMISION AMERICANA DE TURISMO

Turismo rural es tema de un seminario que comienza hoy

REI
cor
cal
y c:

Hoy y mañana se desarrollará en nuestra capital un seminario internacional sobre turismo rural y la 40ª Reunión de la Comisión de las Américas de la Organización Mundial del Turismo (OMT). Ambos eventos se harán en el Yacht y Golf Club Paraguayo desde esta mañana.

Estará presente el secretario general de la Organiza-

ción Mundial del Turismo. Francesco Frangialli.

El seminario internacional sobre el turismo rural, su contribución a la creación de empleo y a la conservación del patrimonio está organizado por el Touring y Automóvil Club Paraguayo (TACPy) y la Asociación Paraguaya de Turismo Rural (APATUR), además de la OMT y la Secretaría Nacio-

nal de Turismo (SENATUR).

Contará con la exposición de calificados funcionarios y técnicos de turismo y la presentación de casos de asociaciones de turismo rural y agentes de turismo, tanto a nivel nacional como de América y España. Este evento comenzará a las 9 hs. en el salón Galas del Hotel del Yacht.

Los interesados en participar de este seminario pueden hacerlo recurriendo al Departamento de Relaciones Públicas de la Senatur, ubicada en Palma 468. 1er. piso, o en caso contrario en el Yacht y Golf Club, sede del referido evento, hoy a partir de las 07:30 hs.

En lo que respecta a la reunión de la OMT, se

aguarda la presencia de los ministros de Turismo del Brasil, Chile, Colombia, Costa Rica, Ecuador, El Salvador, España y autoridades turísticas de otros países como Haití, Jamaica, México, Nicaragua, Panamá, Perú, Puerto Rico y Uruguay.

Se tratarán temas alusivos a la situación y perspectivas del turismo en América, que incluye a casi 30 naciones del continente.

別添2

PG/3R-041 4/5

Ministros de Turismo en Asunción

Con la cuadragésima reunión de la comisión de la Organización Mundial de Turismo para las Américas, culmina hoy la serie de encuentros referidos al turismo que arrancó ayer en las instalaciones del Yacht y Golf Club Paraguayo.

La actividad de la víspera consistió en un seminario internacional sobre turismo rural y su contribución a la creación de empleo y conservación del patrimonio, organizado por el Touring y Automóvil Club Pa-

raguayo (TACP), la Asociación Paraguaya de Turismo Rural (Aparatur), la Secretaría Nacional de Turismo (Senatur) y la OMT.

Para las 18:00 de hoy está anunciada la sesión de la OMT, y de la misma participarán los ministros de Turismo de América, además del secretario general del organismo rector del turismo mundial, Francesco Frangialli, y autoridades turísticas de otros países.

En el encuentro de esta tarde se abordarán importantes temas relativos a la situación y perspectivas del turismo continental, que incluye a unos 30 países, además de las políticas y estrategias tendientes a su reactivación, según informaron los organizadores.

Subsidio a Ta Porã se estud

Hoy el Ministerio de Obras I caciones (MOPC) podría entrega la evasión en los dos peajes priv Gaspar Rodríguez de Francia, c ción para subsidiar al inversionis

El titular del MOPC Antonio nifestar que están viendo cómo ir pios del Alto Paraná y Caagua "desvíos ilegales" para evadir lo semana pasada, añadió que en la consejo económico (que se real tregarán el informe.

El documento indica que la los desvíos es del 35 por cient ocasiona al contratista del Estac debe invertir en el mantenimier desde Coronel Oviedo (Caagua Este (Alto Paraná), deben ser

min
E
tent
ació
con
con
de

**SEÑOR ANUNCIANTE:
ASI COMO USTED
LEE ESTE AVISO,
OTROS LEEN EL SUYO**



**UNIVERSIDAD NACIONAL DE ASUNCION
FACULTAD DE DERECHO Y
CIENCIAS SOCIALES**

**Escuela de Ciencias Sociales y
Ciencias Políticas**

Se avisa a los interesados en las Carreras de Ciencias Sociales y Ciencias Políticas que están abiertas las inscripciones para el curso probatorio de ingreso que se inicia el lunes 19 de mayo del corriente año.

Inscripciones en la Sede Central sita en Congreso Colombia y Santa Fe y Trinidad.



**CLUB DEPORTIVO
DE PUERTO SAJONIA**

I N V I T A

MIÉRCOLES 14

Salón Central

**CENA SHOW HOMENAJE
DÍA DE LAS MADRES**

22:00 hs.

Los Troveros de América

RCVD
JICA OFFICIAL FACSIMILE MESSAGE

3.(10)



URGENT

NO. PG / 3R-061

PAGE 1 / 6

DATE: 29 MAY 2003 /

To: MD of 3R 中南米部長

From: RR of PG(パラグアイ事務所長)

C.C./ I sent to: MD of TIC(東京国際センター), RR of AG, BR, BRSP(アルゼンティン、ブラジル、サンパウロ)

Subject: パラグアイにおける「対日(観光振興)メルコスール委員会」にかかる情報提供について
(「メルコスール観光振興プロジェクト形成調査」関連)

Requests Pls. reply For your Info Others

Ref. No. (YOURS)

(OURS) PG/3R 041(H15.5.13)号

Please transfer to:

5/12,13に当国アスンシオンで開催された「観光国際会議」の中で「対日(観光振興)メルコスール委員会」(以下、「対日メ委」)が開催されました。その際の議事録(2種類あり、後半は各国の観光関係の署名付です。)を観光局(SENATUR)より入手しましたので、別添のとおり送付します。

概要は下記のとおりです。

記

1 議事録1(別添1)

(1)本会議の結果をCCT(メルコスール技術協力委員会)及びRET(メルコスール観光特別会議)、JICA、民間団体に伝えること

(2)6/23,24のブラジリアでの観光関係会議に先立ち、6/9,10にモンテビデオで準備会合を行う予定。この会合では、民間団体も含む形で、日本市場向けの観光商品の制作方法についても協議する予定。

(3)「対日メ委」を立ち上げ、CCT及びGMC(共同市場グループ)の承認を得ること

(4)日本で10/5~7まで開催予定の観光フェア(JATA主催)に向けて具体的なアクションを考えること(特に、PDMに準じた対日プロモーションの開始方法)

(5)「対日メ委」で合意を得た決定事項についてJICAに報告すること。また、本プロジェクトに関するメルコスール諸国と日本とのコーディネーター役は、6月までのメルコスール議長国であるパラグアイが務める。

(*7月以降、議長国の交代に伴い、コーディネーター役が変更となるかは未定。)

NOTICE: If you have received this communication in error, please notify the sender immediately.
Thank you for your assistance.

3415131

2 議事録2(別添2)

(1) 「対日(観光振興)メルコスール委員会」の各国代表者の決定について

アルゼンチン:La Sra. Gladys Lucero(帰国研修員)

ブラジル:Los Sres.Eduardo Sanovichz y Milton Zuanazzi

パラグアイ:El Sr.Jorge Ramirez(帰国研修員)

ウルグアイ:La Sra. Gloria Campos(帰国研修員)

その他、6/9～10、及び6/23～24の会議については、上記1(2)のとおり。

(2) メルコスール観光特別会議(RET)の再活性化と強化について

- ・ 6/23,24の観光閣僚会議で、RETの再活性化と強化に向けての協議が行われる予定。
- ・ ブラジルの観光大臣の招待により、ボリビアとチリの観光閣僚も参加予定。

以上

別添:5/13の「対日(観光振興)メルコスール委員会」の議事録

NOTICE: If you have received this communication in error, please notify the sender immediately.
Thank you for your assistance.

3415131



(SENATUR カバーレター)

Presidencia de la República

27 de mayo de 2003

NRI DP N° 111/03

Señor
 Hiroyuki Takeda, Director
 Dirección de Cooperación Técnica
**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL
 DEL JAPON JICA**
 Asunción, Paraguay

Tenemos el agrado de dirigirse la presente, en referencia a la primera Reunión del Proyecto de "**Promoción Turística del MERCOSUR para Japón**", realizada el día 13 de mayo de 2003, con el objeto de remitir adjunto copia del Acta de conformación del "**Comité del MERCOSUR para Japón**".

Asistieron a la misma los Ministros de Turismo del Paraguay, Ing. Hugo Galli Romañach, y de la República Federativa del Brasil, Sr. Walfrido dos Mares Guia Netto, así como el Sr. Roberto Acle, Subsecretario de Turismo de la República Oriental del Uruguay, el Sr. Ignacio Méndez por la Secretaría de Turismo de la República Argentina, y funcionarios de la SENATUR.

En dicha reunión hemos informado a los participantes de los detalles del Seminario realizado en la ciudad de Tokio, Japón, así como de los objetivos, detalles del proyecto y posteriores acciones a llevar a cabo. Para tal efecto quedo conformado el **Comité del MERCOSUR para Japón**, por miembros de los cuatro países: Jorge Ramírez Yelsi (Paraguay), Gladys Lucero (Argentina), Milton Zuanazzi (Brasil) y Gloria Campos (Uruguay).

La primera reunión de trabajo de este Comité se llevará a cabo los días 9 y 10 de junio del 2003 en la ciudad de Montevideo, Uruguay, a fin de dar inicio a la Agenda de Trabajo e integrar al sector privado con la finalidad de manejar la creación del producto **MERCOSUR para Japón**.

Al respecto, solicitamos tenga a bien comunicar al Gobierno del Japón las decisiones tomadas por los cuatro países, en cumplimiento con lo establecido en el PDM "**MATRIZ DEL PROYECTO**".

Sin otro particular, hacemos propicia la ocasión para saludarle muy atentamente.

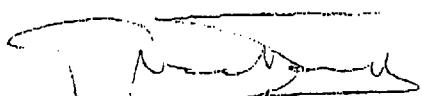


Arq. Jorge Ramírez Yelsi
 Director de Turismo Operativo

Nota Informe para la JICA/JQ

別添 1

ACTA: En la ciudad de Asunción, capital de la República del Paraguay a los trece días del mes de mayo de dos mil tres, en la Reunión del Proyecto "Promoción Turística del MERCOSUR para Japón", realizada en el marco de la "40 Reunión de la Comisión de la OMT para las Américas", se reúnen los integrantes del **Comité del MERCOSUR para Japón**, Sres. Milton Zuanazzi (Brasil), María Carmen Saravia, por Gladys Lucero (Argentina), Jorge Ramírez (Paraguay) y Gloria Campos (Uruguay) y coinciden en resolver lo que se detallará: 1) comunicar a la CCT y a la RET el resultado de la reunión mantenida con los Ministros de Turismo y autoridades presentes en la misma; 2) informarlo a JICA; 3) realizar una reunión preparatoria a la de los Ministros de Turismo, que tendrá lugar en Brasilia los días 23 y 24 de junio de 2003, en la ciudad de Montevideo, en la Secretaría del MERCOSUR, los días 9 y 10 de junio próximo e integrar a la actividad privada, con la finalidad de manejar la creación del producto MERCOSUR para Japón; 4) informar a la actividad privada el Proyecto y los resultados de las reuniones de Asunción; 5) formalizar la creación del Comité y la aprobación del Proyecto ante la GMC y CCT; 6) realizar gestiones para participar de la JATA, que se llevará a cabo en Japón del 5 al 7 de octubre del corriente, como forma de comenzar la promoción turística del MERCOSUR en Japón y de acuerdo a los objetivos trazados en el Plan o Proyecto; 7) comunicar a JICA la evolución de las decisiones tomadas en el Comité, como la de que Paraguay sea coordinador del Plan o Proyecto entre los países del MERCOSUR y entre éste y Japón, en su calidad de Presidente Pro Témpore del MERCOSUR, así como cada país que adquiera oportunamente dicha calidad. En señal de conformidad se suscriben cuatro ejemplares de un mismo tenor en el lugar y fecha arriba indicados.-



ACTA: En la ciudad de Asunción, capital de la República del Paraguay a los trece días del mes de mayo de dos mil tres, en la Reunión del Proyecto “Promoción Turística del MERCOSUR para Japón”, realizada en el marco de la “40 Reunión de la Comisión de la OMT para las Américas”, se reúnen los Ministros de Turismo de la República Federativa del Brasil, Sr. Walfrido dos Mares Guia Netto, de la República del Paraguay, Sr. Hugo Galli Romañach, Subsecretario de Turismo de la República Oriental del Uruguay, Sr. Roberto Acle y funcionarios de las Secretarías de Turismo de las Repúblicas de Argentina, Brasil, Paraguay y Uruguay, a efectos de tratar temas conforme al siguiente orden:

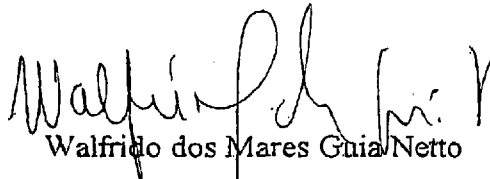
- 1.- Conformación del Comité del MERCOSUR para Japón.-
- 2.- Reactivación y fortalecimiento de la Reunión Especializada de Turismo del MERCOSUR.-

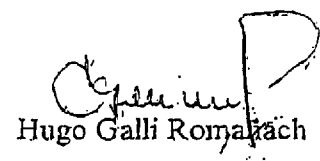
En relación con el punto 1.- se resolvió designar a representantes de cada país con la finalidad de formar el Comité del MERCOSUR para Japón, siendo las personas que se dirán las que lo integrarán: por Argentina la Sra. Gladys Lucero, por Brasil los Sres. Eduardo Sanovichz y Milton Zuanazzi, por Paraguay el Sr. Jorge Ramírez y por Uruguay la Sra. Gloria Campos. El Comité se reunirá en la ciudad de Brasilia, en el marco de la reunión de Ministros de Turismo del MERCOSUR, convocada en este acto, que tendrá lugar los días 23 y 24 de junio del corriente año. A esos efectos se llevará a cabo una reunión preparatoria en la ciudad de Montevideo, en la Secretaría del MERCOSUR, los días 9 y 10 de junio próximo.

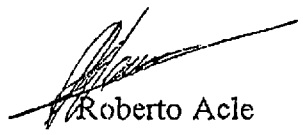
En relación con el punto 2.- se resolvió reactivar la Reunión Especializada de Turismo del MERCOSUR y su fortalecimiento, es así que tendrá lugar la reunión de Ministros en la ciudad de Brasilia los días 23

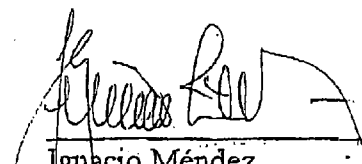
y 24 de junio de 2003, con la participación de Bolivia y Chile, originada en la invitación del Sr. Ministro de Turismo de Brasil.-

En señal de conformidad se suscriben cuatro ejemplares de un mismo tenor en el lugar y fecha arriba indicados.-


Walfrido dos Mares Guina Netto
Ministro de Turismo
República Federativa del Brasil


Hugo Galli Romáñach
Ministro – Secretario Ejecutivo
República del Paraguay


Roberto Acle
Subsecretario de Turismo
República Oriental del Uruguay


Ignacio Méndez
Secretaría de Turismo
República Argentina

観光省

国家観光計画

行動指針、目標および計画

2003-2007

ブラジリア、2003年4月29日

観光省

国家観光計画

行動指針、目標および計画

1. ブラジル連邦共和国大統領のメッセージ
2. 観光大臣のメッセージ
3. 観光産業の管理
4. 国家観光計画の組織化
 - a) 序文
 - b) 分析結果
 - c) 観光開発に向けた根本方針
 - ・ 政府の方針
 - ・ 前提
 - d) 見解
 - e) 総体的到達目標および特定の到達目標
5. 観光産業の数値目標—2003—2007
6. マクロ計画
7. 国家観光計画原文の起草のための提案に携わった機関
8. 参考文献

観光省

1. ブラジル連邦共和国大統領のメッセージ

経済発展および社会分野に於いて新政府が達成すべき課題について多くが語られて久しい。

雇用の創出、外貨の獲得、地域間格差の是正およびより良い所得の分配の必要性は、即時の対応を要する事項である。

ブラジルは疑い様もなく、その自然・文化・歴史的豊さに於いて比類の無い国である。そのことが我が国を無数の観光名所を有する魅惑的な場所としており、多様性こそが我が国最大の資本である。

観光が我が国の天賦の事業であることは否定し難い。海岸、森林、山、川、祭、様々な郷土料理、国立公園、史蹟、伝統的に受け継がれているブラジル人の手厚いもてなし、といった観光客の誘致のための全ての条件が整っているのである。

もてなすことは、我が国民の傑出した特性である。人種の融合により、陽気で、連帯感に満ちた国民が形成され、全国民が多様性の中に生き、平和に共存している。ブラジルは、全ての人々のための国家である。

我が国の天賦の天然資源は、観光産業を通じて恒久的な富の源泉に変貌しなければならない。

観光はその活動の特性および最近10年間のダイナミックな成長により、政府が抱える課題をより完全かつ迅速な形で達成させることを可能とする経済部門である。とりわけ、ブラジルの重要観光スポットが貧困地域に存在する事実、それら地域が国内外の裕福な都市からの観光客を受け入れることにより、観光が地域間格差の是正に関与し、その格差を緩和することを考慮すれば、そのことが理解できる。

観光省

コミュニティーが企画過程に参画し、適正なモデルを使用して適切に企画された観光産業は、より多種多様な社会主体の参画を誘引する。観光客により生み出される資金は、ホテル、レストラン、スナック、遊興・レジャー産業を起点として流通する。地元の全商業が恩恵を蒙る。

新聞売り、タクシー運転手、ホテルのメイド、コック、手工芸の職人、ミュージシャン、船頭、漁師、その他の職業従事者が開発プロセスの当事者となる。観光客を受け入れるコミュニティー全体が参画することとなる。

本モデルに於ける分野の大部分は中小企業により占められるため、活動の発展は当然、富の分配要因として寄与する。

観光産業における雇用の創出は、その他の経済活動分野に比し、投資が少額で済む。同時に、人的資源の職業訓練・専門化が迅速に行われることおよびこれらサービスの機械化が不可能なことにより、観光産業は政府が設定した新規雇用創出目標の達成のための最重要分野である。

上述の展望以外にも、観光産業は外国人観光客の増加、観光施設建設のための資本の誘致により外貨の増加に貢献し、貿易収支の均衡に重要な役割を担う。

観光省

これらの動機により、選挙運動期間中より我々は、観光省の創設およびブラジル観光商品の世界市場に向けた商品化の支援、マーケティングおよび振興を再び照準にしたブラジル観光院の専門化を公約して来た。

本公約の具体化は、観光分野を政府の最優先分野の一つとして位置付け、国のマクロ戦略へ統合し、経済発展および社会格差の是正への重要任務を遂行することを意味する。

国家観光計画の提案では、このような新たな構造的現実の中で同省は、その他の様々な観光部門の統括プロセスの調整役としてその役割を強化して行く。

本国家計画は連邦政府、州政府および市郡、非政府組織、民間イニシアチブおよび社会を結び付ける鎖の輪である。ブラジル商品の国内外市場への供給増大を図るために到達目標を一本化し、資源を最大限に活用し、品質および競争力の増大に向けた努力を一体化する要素となる。

我々は共通の認識に立ちながら共同で計画を策定するための提案を提示しているのである。我々は、本活動が機会の拡大、自然資源、文化資源の持続可能な活用、ひいては全国土における開発および均衡に繋がる決定的な要因となることを確信し、我々の多様性の中で団結を模索して行く。

観光省

2. 観光大臣のメッセージ

本国家観光計画の社会に向けた提案は、観光省の創設に際し、観光産業を国の社会経済開発の推進要素として優先するという、ブラジル連邦共和国大統領の公約を強化するものである。

本国家計画はブラジルの様々な地域、観光産業の全代表的分野からの意見を元に、それらを集大成したものである。

新計画は、経済的富および社会開発を生み出す真の源泉であり、変革および改革の主体としての本活動の潜在性を損なうような無気力や障害を打破することを提案している。本国家計画が実施される際には、観光産業を国の優先的事項とする公約が実現されるよう、努力を振り向けるべき新たな方向付けを行い、障害を除去することとなろう。そのためには、戦略的思考、経済動向の観察、確実な調査および展望を基本として将来に備え、前進し、今後数年の本活動のあるべき姿を構築しなければならない。

供給する製品および供給先、また市場も多様化されなければならない。連邦政府、州政府、市郡当局、公共機関、協会、大学、企業家および本分野を構成している全事業者は、他の多くの諸国が観光市場の獲得に鎬を削る今日、ブラジル観光の品質を高め、競争力を強化するための努力を怠ってはならない。

観光省

また、全国民に国民の正当な欲求であるレクリエーションおよび休暇の機会を与え、ブラジル社会の消費を促すことにより、社会統合の要素を併せ持つ国内観光を増大させることにも注意を払うべきである。

以上のような形で我々はブラジル社会に対し、本国家観光計画を提案する。本計画の策定および補強は、以下の項目に配慮しながら現連邦政府の政権期間中に実施される。

- ・ 制度間の相互関与が構築された時点から、観光産業は新しい職場・雇用の創出の源泉、富のより良い分配、コミュニティの生活の質の向上に寄与するものとなろう；
- ・ 観光産業は国内の職場の倍増に貢献するため、都市部の暴力、治安の悪化に歯止めを掛け、治安の安定を可能とする；
- ・ 観光産業は、持続可能の原則を強化しながら、環境資源（文化・自然）の評価および保全の主体に変貌すべきである；
- ・ 観光産業は、ブラジルの国際市場における競争力の増強を視野に入れ、教育および職業訓練プログラムを通じ国内の観光供給の質を高めることが可能である；
- ・ 観光産業は、そのインターフェイスを使いながら創造的プロセスの推進メカニズムとして活動し、国および地元コミュニティの自己尊厳を高めながら、ブラジル国民の地域性、固有性、文化的アイデンティティーに裏付けられた新しい観光商品を創造する；

観光省

- ・ 新たな社会政策による観光は、労働者が余暇を過ごす最も効果的な表現方法の一つであり、その肉体・精神面の健康に寄与する；
- ・ ブラジル社会が継続的、習慣的に国内観光を行えば、国内観光産業も強化され、国際市場に対応できる高品質な観光サービスの提供への組織化に好ましい状況を生み出す；
- ・ 観光産業が国際収支面で設定された目標値に到達するためには、その様々な流れの迅速化且つ簡易化を視野に入れた、適正な規範および法律の制定が望まれる；
- ・ 観光産業は、その流体的な性質により、生産ベースと消費市場間の情報交換を常に必要とする。マーケティングへの継続的投資は、市場政策の成功を保証する大きな鍵となる；

協同および分権化された管理を基本とした、一体化し、持続性のある観光の構造を構築・強化するためには、公共部門および民間部門の一丸となった努力が不可欠であり、その熱意、決意によってのみ、ここに掲げた課題の達成が可能となることを最後に明記したい。

観光省

3. 観光産業の管理

観光省の創設は、観光分野の古くからの要求に応えるものである。観光省は、公共政策および民間部門を一体化しながら、直接行政機関としてその他の省庁、州政府、市郡政府、立法府、企業、組織化された社会間の調整を行うための要件を備えることとなる。このようにして同省は最大限の結果をもたらし、経費の削減・合理化を実施しながら統括者としての役割を、決意をもって担うこととなる。

同省の組織は、以下に挙げる機関以外に大臣への直接補佐を行う機関によって構成される。

a) 観光政策局： “国家観光審議会が提言した行動指針に即した国家観光計画の設置、策定、評価および監視” を主に管轄し、また、本政策に必要とされる制度間および国際関係の調整を行う。

b) 観光開発計画局： 地域開発計画との協調の下に、投資の奨励、振興、公共・民間イニシアチブへの助成を推進する活動を実施する。

c) ブラジル観光院—EMB R A T U R： 海外市場に向けた国内の観光商品、サービスおよび観光スポットの商品化の支援、振興、普及を行う。

d) 国家観光審議会： 観光大臣直属の補佐機関。その権限は“国家観光計画の策定および実施のための行動指針を提言し、技術的援助を行う”こと。本審議会は、観光産業に関連する他の省庁および公共機関の代表者、また、観光主要部門で全国的な色彩を有する機関からの代表者により構成されている。

観光省

同省は、分権化された社会参画型の新しい公共管理市場モデルを構想中で、本モデルでは実際に観光が行われる市郡がその最終範囲となる。

以上のように、同省、国家観光審議会、全国長官フォーラム、州の観光当局の各戦略レベルに沿った管理システムを提案している。

全国長官フォーラムは非公式の諮問組織で、州の観光長官により構成され、州および市郡からの要望を中心に問題点およびその解決策の提示を補佐する役割を担う。

上述の形で戦略の拠点は州政府との対話チャネルを確立し、州政府は市郡および観光地域からの要望との繋がりを保つ。本フォーラムの権限は以下に規定する通り：

- ・ 必要とされる協同事業の構築に際し、援助者および調整役として機能し、国家観光計画および政策の策定に寄与する；
- ・ プログラム、プロジェクトおよび戦略的活動を検討、策定し、管理能力および資源を配備し、新たな現実の構築に対し共同責任を負う；

観光省

- ・ 構想にあるプログラムおよびプロジェクトを実行、評価するために協同事業を創生し、様々な当事者間の調整を図る；

その他の分権化プロセスの手法としては、国家観光計画の実施を容易にし、各州および連邦区を繋ぐ生産連鎖を一体化する目的で27の州フォーラムが設立されることが挙げられる。

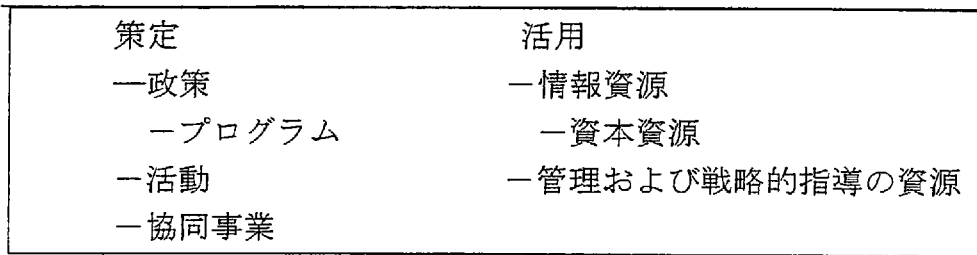
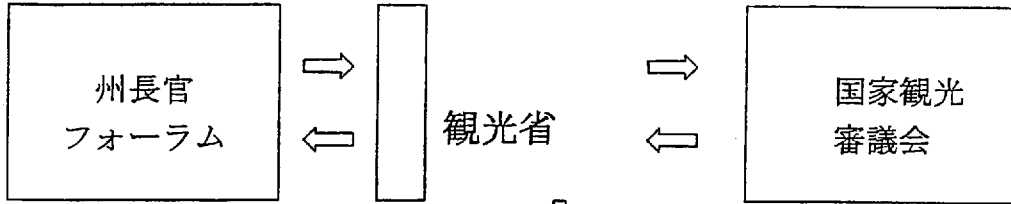
州フォーラムは州長官、観光省、公共・民間機関および国家審議会の参加者より任命された各一名の代表者、各地域、市郡、高等教育／観光学の機関および観光産業に拘わりのある州のその他機関を代表する者により構成される。

州フォーラムは、連邦政府と観光スポットとの連携チャンネルを構築し、戦略的中核により策定された政策の運用において重要な役割を担う。

その他、分権化の政策の一つとして、市郡が市郡の観光審議会を設立することを奨励していること、複数の市郡が一連の観光商品で構成される統合された旅程を共同で供給するコンソーシアムの組織化が行われ、ブラジル観光の管理システムを補完することが挙げられる。

本管理システムを構成する各当事者間の関係については次項の図表を参照されたい。

観光省



監視

州観光フォーラム

活動

- 需要を最大限に活かし、準備を整える
- 問題および“障害”の解決策を提示する
- 政策により策定された活動を優先する
- 普及員の活動を支援する

監視

地域／統合された旅程および市郡

観光省

4. 国家観光計画の組織化

a) 序文

国家観光計画は観光省の企画手法であり、政府および生産部門の考えを明示し、観光分野の開発を強化するための活動の方向付けを行うことを目的とする。

本計画書は、観光部門の動的側面により生じる必要性に応える形で、参画方式による討議および実行を重ねながら策定される。

本計画の策定作業は観光省主催の2つの会議により始められ、それら会議ではブラジル観光業の抱える問題点およびそれら問題の解決策に関する幅広い範囲の意見を求めるため、同省の原案を提示し、提言および主要問題点の指摘を要請した。

第1回目の会議には、関連の全公共機関、公益法人、国営企業および観光部門の代表者が出席した。第2回会議では州の観光長官および観光公社の総裁が出席した。

これら初期行動は大きな成果を収め、大量の提言、指摘はテーマ毎に分類、整理され、これらを元に本国家観光計画の策定を開始した。

観光省

これら提言の分析は直面している大きな課題の理解を深め、以下の項目を含むブラジル観光のための最初の提案をとりまとめることに役立った。

- ・ 管理システム
- ・ 将来の展望
- ・ 追求すべき到達目標
- ・ 達成すべき数値目標
- ・ 観光の構造的軸

本計画の原案をブラジルの様々な地域で提示した。北部地域の代表者はベレンで会議に出席し、東北部地域の代表者はジョアン・ペソアに、南東部地域の代表者はサン・パウロに、南部地域の代表者はクリチバに、中西部地域の代表者はブラジリアの会議に出席した。

州の観光管理当局、非政府組織、民間部門の代表者が多数出席し、本計画の原案に連署した。

また、ナタルで開催された全国州長官観光フォーラムには観光管理当局者が出席し、そのフォーラムの会場で現段階における本計画が提示された。これら会議を受けて、本計画は7つのマクロ戦略プログラムに分類・組織化され、これらマクロ計画はさらにプログラムに分割されることとなる。

第2段階として、マクロ計画、プログラム構築のダイナミックスを提示するために全国規模で34法人代表者の出席の下、会議を開催した。これらのプログラムの構想はテーマ別部会を通じ国家観光審議会と協同で策定されることとなり、その席上で討議および指摘された問題点の解決策への糸口が与えられることとなる。

観光省

b) 分析結果

最近数年の進歩にも拘わらず、ブラジルはその潜在性および天賦の富を活用して世界の観光市場にその名を轟かすには至っていない。政府部門間の連携の欠如は不適切な政策を生み出し、観光部門に充てられた僅かな資金も、共通の目標を無視した、或いはそれに照準されていない活動の中に失われて来た。連携の欠如は公共部門と民間部門間の関係にも見られ、以下に挙げる問題点を悪化させて来た。

- ・ 観光部門に対する政策および計画の成果を評価するプロセスの欠如。
- ・ ブラジル観光に関するデータ、情報および調査の不足。
- ・ 管理部門およびブラジル観光商品の品質における観光部門の人材の習熟度および専門性の欠如。
- ・ ブラジル観光商品の品質および競争力を増しながら生産連鎖を組織化するプロセスの欠如
- ・ 活動を不適切に規定し、消費者保護に焦点を当てたサービス供給の質的管理が不十分である。
- ・ 様々な公共分野において過度な法規定が存在しており、観光分野に関連する全ての法規定の見直しが求められる。
- ・ 観光分野に対する不十分且つ不適切な信用の供与。

観光省

- ・ 全ての基本インフラ（下水道、上水道、エネルギー、運輸）および観光インフラの管理および運用の恒常的な不備。
- ・ 国内・国際市場に供給されている観光商品の品質が低く、種類・多様性に乏しい。
- ・ ブラジル観光商品の振興および商品化のための資金不足および戦略と連携の欠如。

観光省の創設、観光振興および商品化支援を主軸としたブラジル観光院の再編、広く社会が参画する形式による国家観光計画の策定は、観光が現連邦政府の最優先項目の一つであり、上述の問題点が実際に取り組まれている緊急課題である事実を如実に表している。

観光省

c) 観光開発に向けた基本方針

国の開発プロセスにおける観光の重要性は、観光商品と成り得る天然資源および文化財の有無のみに左右されるものではない。

観光客数の増大を保証するためには、我が国の商品の魅力および競争力を高める一連の構造的要素を集大成しなければならない。

観光分野の多様な規律、観光によって生み出される経済的、社会的、環境的、政治的および文化的インパクトは、市郡、地域および国家レベルの開発促進の強力な手法を方向付け、規律し、制定する企画および管理プロセスを必要とする。

我々は、観光を通じて、市民、州および生産部門を包含するような広大な変革プロセスを生み出すことにより国の開発に貢献することを志す。

市場力、市場の拡大および富の分配が協調するような新観光モデルの設立を望む。

これは、社会経済、政治および環境面における解決策の一体化を構想するものである。

観光分野の競争力の増大、観光が住民の生活条件改善に与えるインパクト、決定の分権化、環境保全への配慮は、新たな開発モデルを設定する際の柱となるものであり、その中では全ての地域が一体となって発展できるのである。

観光省

観光産業により、経済発展の分散化、格差の是正およびより良いブラジル新生のための新たな機会の創造が可能となり、これらは普遍の倫理的原則に沿って行われることとなる。

これらの原則が全ての個人、コミュニティーおよび社会に適用されれば、それらは全観光産業当事者の活動のそれぞれの働きの中に垣間見られるに違いない。

観光業務および実務は、具体的な倫理基準および2000年の世界観光機関（WTO）の観光における世界の倫理規範の主要原則に沿った形で指導されるべきである。

このため、国家観光計画の全てのプログラム、プロジェクトおよび活動は、以下に挙げる方針および前提を主要な指針として掲げることとなる。

政府の方針

地域格差を是正する
富を分配する
雇用を創出する
国際収支の均衡を図る

前提

倫理および持続可能性
人間的
生態学的
経済的
文化的

観光省

政策

d) 見解

ブラジル観光は地域の多様性を重視し、ブラジルの固有性により彩られた商品の創造を特色とし、国内市場の拡大および世界の観光市場へのブラジルのより効率的な進出を図る。雇用および収入の創出、社会・地域格差の是正、貿易収支の均衡は、本稿に記載の戦略的活動により到達されるべき展望となろう。

観光省

e) 総体的到達目標および特定の到達目標

国家観光計画はその到達目標を出発点に構成され、そこからマクロ計画、プログラムおよび活動が派生する。

以下に掲げる、これら到達目標の1つ1つが、各特定分野において到達することが期待される成果の要点を提示している。

e.1) 総体的到達目標

- ・ 地域、文化および自然の多様性に注目しながら、高品質なブラジル観光商品を開発する。
- ・ 国内外の市場において、ブラジル観光商品の消費を奨励し、助長する。

e.2) 特定の到達目標

- ・ 観光商品を高品質なものにする。
- ・ 観光商品の供給を多様化する。
- ・ 観光の行き先を組織立てる。
- ・ 労働市場を拡大、改善する。
- ・ 国際市場への競争力のある観光商品の参画を増やす。
- ・ 国内市場での観光商品の消費を増大させる
- ・ 観光客一人当たりの滞在日数および平均消費額を増加させる。

観光省

5. 観光産業の数値目標—2003—2007

- 5.1 — 観光部門で120万人の新規雇用を創出するための条件を整える
- 5.2 — ブラジルを訪問する外国人旅行者の数を900万人に増加させる
- 5.3 — 80億米ドルの外貨を獲得する
- 5.4 — 国内航空による到着数を6000万人に増大させる
- 5.5 — 各州および連邦区において少なくとも3つ以上の高品質な商品を開発し、ブラジル観光産業の供給の幅を広げる

観光省

5. 1- 観光部門で120万人の新規雇用を創出するための条件を整える

失業問題は、連邦政府が直面している大きな課題の一つである。近年の経済停滞は、我が国におけるこの問題を悪化させた。

ここ数年に亘り、観光産業は新規雇用の創出および他部門の労働力の再活用に最も貢献した分野の一つであることが確認される。

世界観光機関によると、新規9雇用の内、1雇用が観光産業によって生み出されている。2007年までに1000万人の新規雇用を創出するという政府の目標値を元に計算すると、観光分野において120万人のための職場を創出する条件作りを行うことになる。

設定目標を達成するために、観光事業者に対する信用供与、ブラジルおよび海外からの新規観光事業への投資の誘致活動と言った本計画の優先活動事項を実施する予定である。その結果、2007年までに経済に約120億レアルのインパクトを与えることが見込まれる。

観光省

5.2- ブラジルを訪問する外国人旅行者の数を900万人に増加させる

7年間の連続した増加の後、ブラジルを訪問する外国人旅行者の数は、最近2年の間に大きく落ち込んだ。

世界経済危機、特にアルゼンチンの経済危機、ブラジルの低い経済成長率および9月11日のテロ事件により、ブラジルを訪れる外国人旅行者の数は2002年には僅か380万人となる見通しであり、この数値は最近5年間で最低の値となる。

期待される数値目標を達成することは大きな課題であり、旅行者にレクリエーションを提供するだけでなく、ビジネス、イベントおよび恩典を与えながら、高い信頼性および高品質な商品を提供する近代国家としての新しいイメージを浸透させ、継続的な形で国際市場の中で差別化したプロモーションを行う必要がある。

このイメージに、ブラジルの真髄、その文化、民族的・社会的多様性、様々な地域といった要素を融合させなければならない。

我々がターゲットとする市場は、ブラジルと文化的類似性を有する近隣および遠距離の南米諸国からの旅行者であることをここに明確に定義する。

飛躍的な増大を図るためには、幾つかの基本的条件を整備する必要がある。

観光振興の安定した活動を実現するためには、公共および民間機関の連携を促進しなければならない。また、資源を活用し、更なる商品化のチャネルを開発することも必要とされる。

観光省

これにより、年間15%を超える成長率を達成することが可能であり、2007年には900万人の観光客が見込まれる。

但し、この目標値は市場および観光客受け入れに必要なインフラが理想的な状況にあると仮定した場合の値であることをここに強調しておきたい。より悲観的な予測研究によると、2007年の観光客数は750万を見込んでいる。

観光省

5. 3- 80億米ドルの外貨を獲得する

ブラジルの観光産業により生み出される外貨収入は7年間の成長を見せた後、訪伯外国人数の減少と共に、最近の2年間では下降線を辿っている。

世界経済の危機により、2002年の外国人入国者数は380万人、国際観光収入は31億2000万米ドルになる見通しである。

期待される数値目標の達成は、2007年までに900万人と言う観光客の数の増加によってのみ可能ではなく、滞在日数、観光客一人当たりの平均消費額等その他の数値にも左右される。

2001年の平均滞在日数122日、観光客一人当たりの平均消費額81.21米ドルを更に引き上げる必要がある。

ブラジルの地域・文化の多様性を念頭に置いたプロモーションの焦点の変化、レクリエーション、ビジネス、イベント、恩典と言った新商品の商品化の増大は、外国人旅行者により広い選択肢を提供することとなる。これら商品分野の強化は、観光客のブラジル滞在期間の増大に繋がる条件となる。

高品質な観光サービスをより多く自由に消費できる状況、ブラジル特産品および手工芸品の増加、これら商品と観光の合体は、目標値80億米ドルの外貨獲得のための主要活動である。

観光省

この目標値は、900万人の訪伯外国人旅行者数と相関関係にあり、景気の状況が良くない中、900万人の訪伯により2007年までに少なくとも71億米ドルの外貨を獲得できるとの見通しがあることをここに明記したい。

観光省

5. 4 - 国内航空による旅客の到着数を6500万人に増大させる

最近7年間の国内旅客数は連続的に増加している。

この増加の傾向は、最近2年間、ドル高の影響で特に顕著であり、多数のブラジル人が海外旅行先をあきらめて、ブラジル国内の旅行を選択したためと思われる。

2001年末には、3260万人の国内旅客数を記録し、この数値は前年比14.3%の伸びを示した。

現在の米ドル／レアルの為替レートが維持される場合でも、期待される目標値の達成には新たな活動が必要とされる。

以下に挙げる項目が主要施策項目である：

- ・ 我が国の地域、文化の多様性に注目した新商品の提供；
- ・ 商品別分野の強化、特にビジネスおよびイベントに区分される商品の充実；
- ・ 小規模空港を改良し、地域航空輸送の便宜を図る；
- ・ 業務の規範化、職業訓練の実施により高品質の商品をより多く提供する。

観光省

国内市場の強化は、道路交通旅客数にも良いインパクトを与えるが、現存の記録の信頼性に問題があり、その数値目標を数量により記載することは行われなかった。

5.5- 各州および連邦区において少なくとも3つ以上の高品質な商品を開発し、ブラジル観光産業の供給の幅を広げる

ブラジル観光の供給の特徴は、数の限られた点に在る行き先を同様のセールスポイントを使って売り込んでいる点にある。

現在供給されている商品は、ブラジルの文化的多元性、地域的多様性を反映していない。ブラジル国内には発掘され、開発されるべき潜在性が存在し、地域開発および地場振興の選択肢を創出する必要性は差し迫ったものとなっている。

観光を持続可能性という基本原則に立って開発し、社会参画、分権化および系統化を進めつつ、供給の統合とその結果である組織化および幅の拡大を推進していくことが望まれる。

州政府、戦略的パートナー、民間部門、市郡およびコミュニティの効果的な関与は、本プロセスにとって不可欠なものである。これにより、ブラジル観光商品の品質、多様性および競争力を可能とする土壌が生まれる。

目標値の設定により最低でも81の商品が開発され、国内外の観光客の流れが増大し、市郡および地域の社会的・経済的条件が改善されよう。

観光省

6. マクロ計画

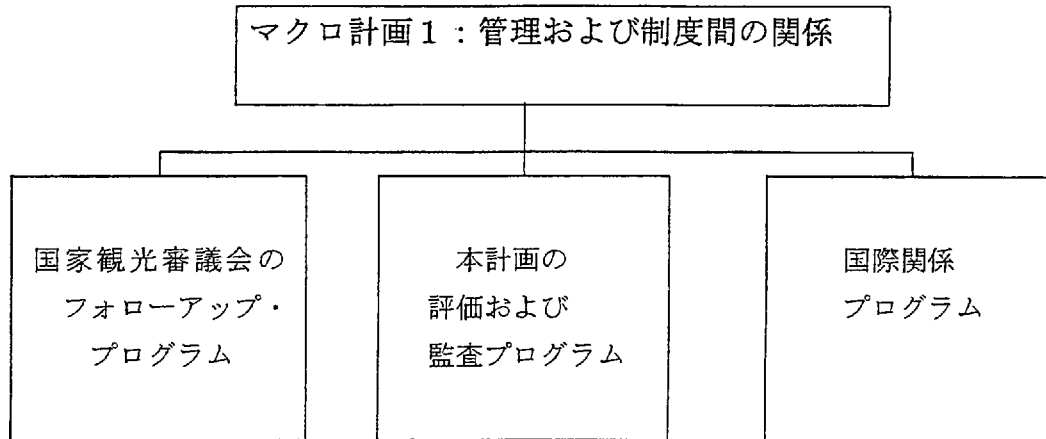
マクロ計画は、2003年から2007年の期間における観光産業の到達目標および目標値に関して設定された公約を達成する潜在力を有するテーマごとに展開された計画である。

マクロ計画は、観光分野への提言のプロセスを通じて明らかにされた、ブラジル観光の成長を妨げる問題点および障害を解決するために設定されたプログラムから構成されている。

これらプログラムの詳細は、テーマ別委員会と共に決定される。テーマ別委員会のプロジェクトおよび活動は今後実施される予定であるが、その企画、優先順位の決定、予算および成果に対する評価が活用されることとなろう。

観光省

6. 1 -



a) 解説

迅速な解決策を施し、官僚主義的な障害を排除し、決定権を共有し、本分野における成長過程に携わる全ての人々の参加を促すためには、観光開発のための数々のインターフェイスは、様々な公共部門と民間部門の永続的な連携を必要とする。

観光省は観光に直接或いは間接に拘わる省庁および政府機関との様々なインターフェイスを構築する権限を有する。

他方、公共機関との対話を強化するための民間イニシアチブの代表的チャネルを確立することも必要とされる。

制度間の利害をベースとした管理および連携の手法が必要となり、国家観光審議会が設立された。その目的は国家観光計画の策定および導入を補佐することである。

観光省

また州フォーラムも設立される予定である。その目的は、それぞれの利益を融合させ、分析・診断し、観光開発に影響を及ぼす事項の解決策を提示することである。

公共部門と民間部門間の内部連携に関する事項以外に、ブラジルの国際観光機関への確実な参加も重要且つ必要なことである。

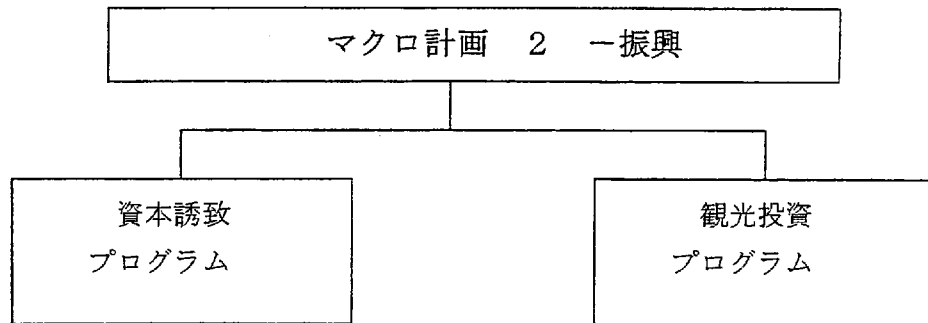
この行為により、諸国間および経済ブロック間での交渉能力をより十分に発揮し、観光振興に繋がる適切な法規および規定を導く国際技術協力、2国間および多国間協定・条約の締結を進めて行かなければならない。

本マクロ計画には、国家観光計画により今後実施されるプロジェクトおよび活動の成果の評価・監査過程が含まれる。

b) 到達目標

- ✧ ブラジル観光に関する決定プロセスを分権化しながら、連邦政府、州政府および市郡政府を一体化する；
- ✧ 資源を最大限に活用し、活動を効果的に行いながら、公共部門、民間部門およびその他の機関を統合する；
- ✧ 国家観光計画の成果を監視し、評価する；
- ✧ 観光関連の国際フォーラムに参加する。

6.2-



a) 解説

観光活動は基本的には民間主導で実施され、広範な企画の実現の機会とサービスの提供を行う。本分野の成長には、信用の供与を受けられなかった中小企業の対応を重点的に行いながら、各事業区分の実施に適切とされるクレジット・ラインおよび融資の幅を再検討し、広げる必要がある。

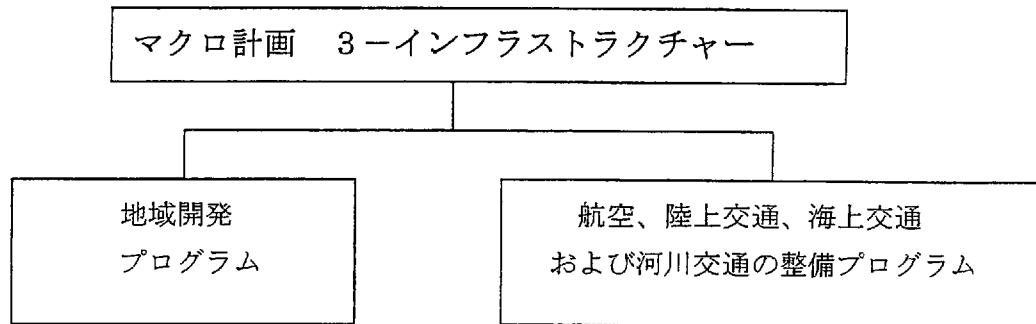
最終消費者への融資は、国内市場の強化のための別の方策であり、ブラジル国内の旅行振興に繋がる。観光インフラの拡大も必要とされる。観光設備の建設に対するインセンティブは、信用供与の形だけではなく、ブラジルおよび海外の投資家を誘致するために魅力的なプロジェクトを発掘し、観光ルートおよびスポットとして登録する形でも行なわれよう。

b) 到達目標

- ✧ 全伯の観光インフラを拡大、改善する。
- ✧ 最終消費者に対する融資を通じて国内市場を活性化する。
- ✧ ブラジルへの投資家の誘致を奨励し、外貨を獲得する。
- ✧ 中小企業にインセンティブを与え、信用供与の便宜を図る。
- ✧ 未開発で、潜在性の高い遠隔地域のプロジェクトへの投資を誘致する。
- ✧ 新たな観光設備の建設および活動の活性化により、新たな雇用を生み出す。

観光省

6.3 -



a) 解説

レジャー、レクリエーション設備および広範な観光商品を備えた“ホテル公園”の拡大は、投資のフィービリティのみでなく、長期に亘る持続性が保証され、基本インフラの充実が実施される場合にのみ可能である。

観光産業が行われている都市では、水道、電気、公共交通、治安、ゴミの収集および処理、下水道、通信、公道およびアクセスの整備が必要とされる。

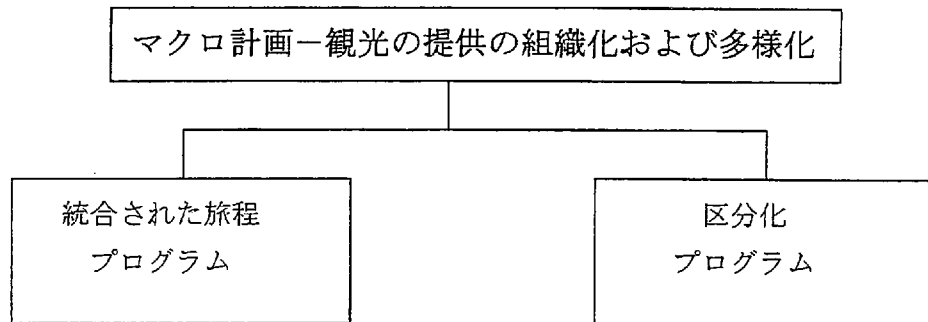
これらの必要が満たされた時、住民が定住し、観光客がその地を訪れることとなる。東北部・南部・南東部・中西部観光振興プログラム、アマゾン・エコロジーツアー振興プログラム、パンタナル・プログラムの実施は、米州開発銀行（IDB）の融資プロジェクトであり、これらの必要を部分的に補完している。

b) 到達目標

- ✧ 観光都市の生活の質を改善する；
- ✧ 観光設備の導入のための条件を作り出す；
- ✧ 観光の流通アクセスを整備する；
- ✧ 均衡の取れたブラジルの地域開発を実施する。

観光省

6.4-



a) 解説

提供されているブラジル観光商品の特色として多様性に乏しい点が挙げられる。現在商品化され、提供中の多くの商品は少数の限りある区分に属し、ブラジル一部地域を網羅するに過ぎない。

文化的多様性を考慮した高品質の新商品を市場にもたらし、ブラジルの様々な地域を念頭に置きながら、商品提供を組織化、拡大することは大きな課題である。

州政府および民間部門の戦略上のパートナーの参加は不可欠であり、安定した企画を実施し、コンソーシアム組織に編成された市郡により構成された統合された旅程プログラムの組織化および標準化のために必要とされる活動を実行する予定である。

観光区分の強化は、これら実務の規範化および法令化から着手することとなる。その目標は、主に品質および安全面に関して国際市場での競争力をつけることである。

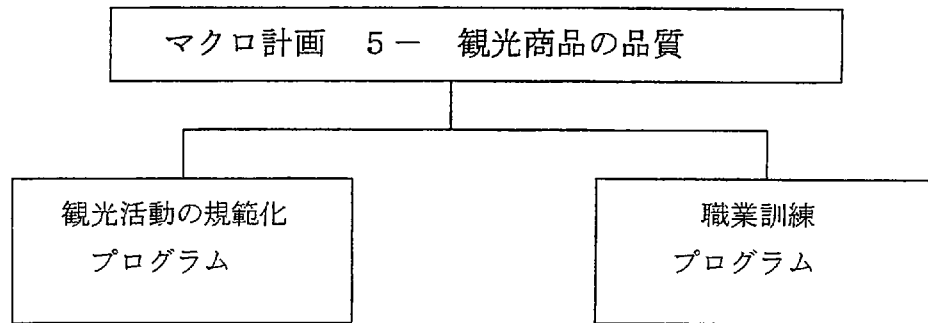
観光省

これら観光区分の組織化は、ブラジル各地域の潜在性および相違点を最大限に活用しながら、市場のそれぞれの需要に応えるためである。

b) 到達目標

- ✧ 商品化された高品質の観光商品の数を増やす；
- ✧ 文化の多元性および地域間の相違点を念頭に置きながら、観光商品を多様化する；
- ✧ ブラジル全州および連邦区の商品を組織化し、地域間格差を是正する；
- ✧ 国内外の観光客の流れを増大させる；
- ✧ 供給するサービスの幅を広げ、外国人観光客の滞在期間を延ばす；

6.5 -



a) 解説

観光商品の品質は、競争の優位性以上に、観光地の成功の必須前提要件である。

何百もの観光地が観光客の争奪戦を繰り広げている現況で、高品質な活動と言う提議は根本的なものとなる。

国は、観光活動を規範化し、監督しながら、観光分野の規制を行うという重要な任務を負う。到達レベルの向上・普及を図るための証明書発行プロセスの導入および完璧なサービスのためのメカニズムの改良が必要とされる。

観光産業が創出する多大の新規雇用、活発な仕事場の循環のためには、人材育成において非常なる努力が必要とされる。

同様に、観光ビジネスの各分野における新技術の導入は、新たな状況に対応し、適用することを求めている。

人的資源の育成では、観光地の社会的、文化的ダイナミズムと共に地域の特性を考慮に入れなければならない。

観光省

観光客に対するより良いサービスの準備が万端整えられた場合は、観光部門に貢献することとなる。

観光部門の全レベルにおける職業従事者を育成する教育機関の任務は重く、特に注目される。

観光サービスの提供者とその消費者間の関係における信頼を保証するためには、商品化に拘わる業務を調和するためのパラメーターとして、規準および規格の設定が必要とされる。

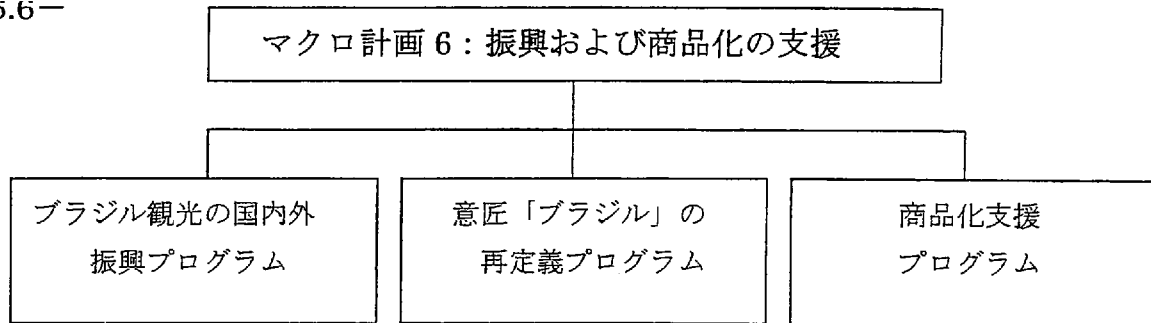
ブラジル人および外国人の消費者に品質のめやすとなる参考資料を提供する必要がある。その資料は観光商品または観光サービスの購入にあたり、消費者の権利を保証するものとなる。

この意味において本マクロ計画は、提供されるサービスの格付けを促し、部門内の関係においても消費者への販売においても濫用を防止する役割を担う。

b) 到達目標

- ✧ ブラジルの観光商品の品質向上を推進する；
- ✧ 観光分野の企業の品質を証明するプログラムの導入を支援する；
- ✧ 提供されるサービスに関する規準、規格および規則を観光区分の代表機関と協力して設定する；
- ✧ 観光サービス監督システムを分権化し、強化する；
- ✧ サービス規準および規則の遵守に向けた努力を増大させ、消費者である観光客の保護を保証する基盤を整える；
- ✧ 新たに創出された職務に携わるべく、公共部門、民間部門を問わず、全観光分野のレベルに於いて、観光の生産連鎖に従事する現当事者の訓練、資格化、再訓練を推進する。

6.6-



a) 解説

国際市場におけるブラジル観光の振興は、我が国に対するイメージの多様化をその戦略的コンセプトとする。マーケティング業務は、ブラジルを太陽があふれるばかりの、無数の海岸を有する自然の宝庫、カーニバル、サッカーという観光地のイメージだけでなく、信用でき、陽気で、若く、ホスピタリティーあふれる近代国家、旅行者に質の高いレジャー、新しい経験を与え、ビジネス、イベント、恩典面においても世界に通用する国というイメージを構築して行くこととなる。振興プログラムとマーケティングに、ブラジル文化の真髄および民族・社会・自然の多様性という要素が合体されることとなる。

国内市場においては、様々な動機づけに応え、価格や入手できる商品の幅を有する高品質で、国の豊かな文化の認識、統合および評価において有益な経験を与えるような国内旅行の数を増やすことが可能となる。同様に、新しい社会の階層が旅行できるよう観光の機会は民主的に与えられるべきである。

これらの活動は専門家により企画され、継続性を持って実施される。何より、国際市場の主要消費国および国内市場に対し創造的、革新的な方法で発信されよう。観光商品の商品化に向けた支援メカニズムは、既存の市場を強化し、中長期的には新市場の開拓に繋がる。国内的には、観光は多岐に亘る国内商品を宣伝、奨励しながら、様々な社会的・経済的階層による旅行を可能とさせることとなる。

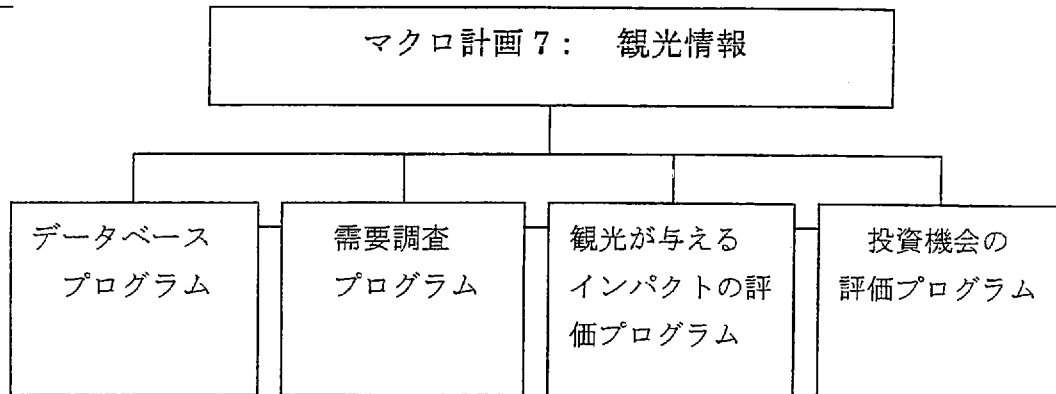
観光省

b) 到達目標

- ✧ 大手国際市場およびラテンアメリカ市場に精力的なプロモーションを行い、ブラジルを訪問する外国人観光客の流れを増大させる；
- ✧ 高品質の商品を数多く売り出し、国内市場の活性化を図る；
- ✧ ブラジルの文化的、地域的多様性を奨励する；
- ✧ 様々なブラジル地域を奨励し、その地域格差を是正する；
- ✧ ブラジルで開催されるイベントの数を増大させながら、ビジネス旅行の区分を強化する。

観光省

6.7ー



a) 解説

観光活動は、その開発を助長する情報の獲得により非常に大きく左右される。

供給を調査するだけでなく、需要の調査も行う継続的なプログラムが必要とされる。社会と共に本部門を強化して行くための条件を提示しながら、観光活動が経済に及ぼすインパクトを査定するシステムのことである。

公共部門および民間部門の管理者は、新規の観光事業の計画および実施を決定する際、またはそれらに関する参考意見を求める際に不可欠な情報を欲している。

継続的且つ信頼性の高い形で実施された調査および数値に基づいた情報の作成および伝達は、観光部門の新しい文化を提供し、その専門性を助長し、公共・民間部門の資源の活用を最大化させる。

b) 到達目標

- ✧ 国内市場の観光供給を知る；
- ✧ 観光活動の経済に与えるインパクトを査定する；
- ✧ プロモーション、マーケティングおよびEMBRATUR（ブラジル観光院）の商業化支援活動を援助する；
- ✧ 公共および民間の観光部門管理者の意思決定を支援する；
- ✧ 国際市場の需要動向を知る；
- ✧ 観光部門の潜在的投資家の意思決定を支援する。

観光省

7. 国家観光計画原文の起草のための提案に携わった機関

ABAVー ブラジル旅行社協会
ABBTURー ブラジル観光学学士協会
ABEOCー ブラジル・イベント業協会
ABIHー ブラジル・ホテル業協会
ABLAー ブラジル・レンタカー協会
ABRACCEFー ブラジル・コンベンションセンター・見本市協会
ABRASELー ブラジル・レストラン・娯楽業協会
ABRATURRー ブラジル地方観光協会
ABRESIー ブラジル宿泊・飲食・観光業協会
ADIBRAー ブラジル遊興業協会
AMPROー 振興マーケティング協会
ANTTURー 全国観光運輸協会
ブラジル・より良い時代クラブ協会
BITOー ブラジル入国者向け旅行者
BRAZTOAー ブラジル観光会社協会
CBTSー ブラジル持続可能な観光審議会
CNCー 全国商業連盟
CONTRATUHー 全国観光・ホテル産業従事者連盟
デゥナス・オフ・ロード探検社
FBAJー ブラジル・ユース・ホステル連盟
FBC & VBー 全国会議事務局フォーラム
FENACTURー 全国観光連盟
FENAGTURー 全国観光ガイド連盟
観光議員前線ー PARLATUR
FHBRsー 全国ホテル・レストラン・スナック等関連業者連盟
FORNATURー 全国州観光長官・管理者フォーラム

観光省

ホスピタリティー協会

サン・パウロ・コンベンション・旅行者事務局

SEBRAE－ブラジル中小企業支援サービス

SENAC－全国商業関係職業訓練機関

SENAI－全国工業関係職業訓練機関

SENAR－全国農村部職業訓練機関

SESC－商業社会サービス

SNEA－全国航空産業組合

下院観光小委員会

UBRAF－ブラジル見本市振興協会

ウルラウブ旅行社（株）

観光省

8. 参考文献

- ⇒ ブラジル観光の進展－1992／2001－ブラジル観光院
- ⇒ 国家観光計画策定のための助成（アニエンビーモルンビ観光書簡）
- ⇒ ゴイアス書簡－国家観光計画－2000年－観光議員前線
- ⇒ ブラジル観光院－業務計画－2003－2007
- ⇒ ブラジル観光活動プログラム－2002
全国商業連盟 一下院観光常設小委員会
- ⇒ 国家観光計画－2001－2006－メキシコ
- ⇒ 国家観光政策－2002－フランス

記

議事録（ドラフト）抜粋

1. ウルグアイ代表より、メルコスール4カ国がJATA 2003年フェアに参加することの重要性、民間部門代表者を含むディスカッショングループ結成、9月27日から実施される研修に各国の代表者4名（計16名）を推薦する事について発言された。

2. 同フェアで配布予定の資料について4カ国で作成方法について一致していないので、当事務所より4カ国共同で一つの資料を作成する案を提案したが、作成の時間が限られているため今回のフェアには不可能であろうとブラジル国観光政策局長（Mr. Milton Zuanazzi）から発言があった。他の3カ国は、観光情報をJICA本部に送付し、JICA本部でドラフトを作成し、各国による検討・確認の後、JICA本部を通じ日本で資料完成版を作成するのが一番適切と合意しているが、ブラジルの考えについては2～3日検討すると発言があった。ブラジル側は各国の配布資料を統一することが重要と考えているので、同様の結論になると予想されます。
(最終的には、他の3ヶ国と)

3. 各国代表の合意であるとして、各国大臣に対し、JICAと共同で検討しているフレームワーク（PDM）の枠内でコンセプトを確定し、同コンセプトに沿って今後5年間の協力につなげるべきとの提言があった。

なお、次回（第36回）メルコスール観光特別会議はウルグアイのモンテビデオ市にて9月1日～2日の機関で実施の予定です。

以上

別添：第35回メルコスール観光特別会議（RET）議事録（案）

NOTICE : If you have received this communication in error, please notify the sender immediately.
Thank you for your assistance.

起案者 柴田 ヨシノリ

3066436

Realizou-se na cidade de Brasília, DF, Brasil, no dia 23 de junho de 2003, a XXXV REUNIÃO ESPECIALIZADA EM TURISMO DO MERCOSUL, com a presença das delegações da Argentina, Brasil, Paraguai e Uruguai, além de representante da Bolívia, na qualidade de observador.

O Secretário Executivo do Ministério de Turismo do Brasil iniciou a Reunião dando as boas vindas aos participantes e apresentando a nova estrutura do Ministério.

O Secretário de Políticas de Turismo do Brasil enfatizou a nova postura da Reunião Especializada em Turismo, e o fortalecimento do Mercosul e dos países membros, sendo necessária a integração sul-americana para se obter um maior desenvolvimento das negociações internacionais.

O representante paraguaio mencionou que o turismo deverá ser retomado com força para o desenvolvimento e bem estar social, salientando a importância do turismo como modo de criação de empregos.

A representante do Uruguai mencionou a necessidade de dar início aos trabalhos e a importância da agenda tentativa. Sobre a Reunião Especializada em Turismo do Mercosul, citou a importância do planejamento e conformidade das ações dos quatro países para sua inserção efetiva no cenário internacional.

O representante da Argentina comentou sobre a gestão da Secretaria de Esporte e Turismo da Argentina e decisão para os próximos dias do representante efetivo na RET.

A lista de participantes desta reunião se encontra no Anexo I.

A Agenda aprovada para esta reunião consta do Anexo II.

Presidiu a reunião o Arquiteto Eulalio Campos Cervera, representante do Paraguai.

I. REDEFINIÇÃO INTERNA

REUNIÃO DE MINISTROS DO MERCOSUL

Devido a importância da atividade turística para o desenvolvimento da América do Sul, ficou acordado que a presidência *pro tempore* solicitará a formalização da instalação da Reunião de Ministros do Mercosul, que deverá ser levado ao conhecimento do CMC.

REVISÃO DE FORMAÇÃO

Foi entregue pela delegação brasileira uma ficha cadastral para atualização dos dados das autoridades de turismo dos países do Mercosul e países associados.

REVISÃO DA FORMA DE FUNCIONAMENTO

Foi acordado entre os representantes a realização de, no mínimo, quatro reuniões técnicas, sendo uma acompanhada de reunião de ministros e outra com a presença da Comunidade Andina, sendo cada uma com no máximo noventa dias de intervalo. As reuniões serão rotativas de acordo com a Presidência *pro tempore*, salvo quando solicitado por algum dos Estados Partes.

TRANSFORMAÇÃO DA RET EM SUB-GRUPO DE TRABALHO

Foi discutida a maior autonomia e eficácia que o tema turismo terá como sub-grupo de trabalho e acordada a transformação da Reunião Especializada em Turismo em um sub-grupo. Esse procedimento, deverá ser levado pela presidência *pro tempore* à consideração do GMC.

SECRETARIA PERMANENTE DA RET

Tendo em vista que a antiga Secretaria Executiva passa a ser a secretaria técnica e executiva do Mercosul, as delegações acordaram que ela seria suficiente para dar apoio aos trabalhos da RET.

II. DEFINIÇÃO DE OBJETIVOS PRINCIPAIS:

Todos os países acordaram que os objetivos principais da RET doravante serão os seguintes:

- INSERÇÃO DO TURISMO NA CONSOLIDAÇÃO DO MERCOSUL COMO BLOCO
- INCREMENTO DO FLUXO DE TURISTAS NOS PAÍSES DO MERCOSUL

III. TEMAS PRIORITÁRIOS:

1. INSERÇÃO DO TURISMO NA CONSOLIDAÇÃO DO MERCOSUL COMO BLOCO

A questão do marketing foi considerada como prioritária pelas delegações que manifestaram o interesse de um intercâmbio de estudos sobre a matéria em cada país para que futuramente seja criada uma estratégia conjunta. A delegação brasileira sugeriu a inclusão dos temas:

- articulação da participação contígua em feiras
- promoção conjunta intra-Mercosul, principalmente via acordo com televisões estatais
- elaboração de um folheto e um guia informativo do Mercosul
- base de dados comum (homepage RET)

Foi acordado que o selo do Mercosul deva constar em todo material de divulgação dos países membros do Mercosul, assim como no agrupamento dos stands dos países em feiras internacionais.

A delegação uruguaia deu conhecimento de um projeto apresentado, com a participação do Chile, Argentina, Uruguai e Paraguai, junto a OEA para promoção conjunta do Mercosul (anexo III).

A delegação argentina sugeriu também uma cooperação internacional junto à OMT visando padronizar o marketing internacional dos países membros.

2. INCREMENTO DO FLUXO DE TURISTAS NOS PAÍSES DO MERCOSUL

A delegação brasileira ressaltou a necessidade do acompanhamento por parte da RET de outros foros de discussão do Mercosul, visando monitorar fatores que influenciem diretamente o fluxo de turistas no Mercosul mas que são de responsabilidade de outros órgãos.

2.1 BARREIRAS LEGAIS, ADMINISTRATIVAS E CULTURAIS

Foram discutidas as dificuldades na remoção das barreiras legais e administrativas transfronteiriças e a necessidade de levar ao conhecimento das autoridades de outras áreas para unir esforços e superar tais obstáculos.

O Brasil apresentou um documento exemplificativo de pesquisa que já vem sendo realizada pelo Brasil. O referido documento consta no anexo IV desta Ata.

Ficou acordado que as delegações farão um levantamento detalhado das barreiras e entraves presentes em seus países para ser apresentada na próxima reunião, visando a elaboração de um documento comum para que sejam traçadas estratégias de como removê-los.

2.2 TRANSPORTE AÉREO (ACORDO TRANSPORTE AÉREO SUB-REGIONAL), TERRESTRE, FLUVIAL E MARÍTIMO

Este ponto foi considerado fundamental pelas delegações para o avanço das negociações, sendo destacada pela delegação paraguaia a necessidade de incrementar as conexões com a comunidade andina.

Também foi abordada a importância de um canal permanente de troca de informações e monitoramento sobre as negociações do setor aéreo.

A delegação argentina sugeriu a padronização dos processos de controle aeroportuários, além do início de um trabalho de sensibilização, inventariando as obras de infra-estrutura para incremento do setor e ações de marketing e promoção intra-regional.

Foi solicitado também, pela delegação da Argentina, que por ocasião do levantamento das barreiras mencionadas no ponto 2.1, sejam também postos em execução os mecanismos que tornem efetivas as normas elencadas em outros foros do Mercosul para eliminação dos entraves referentes ao transporte, como valor das taxas de embarque, guichês especiais para cidadãos do Mercosul, receptivos nos aeroportos, valor das tarifas, limite da bagagem, etc.

3.4 LIBERAÇÃO DE SERVIÇOS (PROTOCOLO MARCO DE SERVIÇOS DE MONTEVIDÉU)

A delegação brasileira justificou a inclusão do tema na pauta devido ao acompanhamento das negociações de liberalização de serviços no âmbito do Grupo de Serviços do Mercosul, da ALCA, da OMC e das Reuniões da União Européias com o Mercosul, salientando a necessidade de uma conformidade entre os países para que sejam realizadas intervenções.

3.5 COOPERAÇÃO TÉCNICA

Foi sugerido pela delegação brasileira a realização de seminários técnicos conjuntos em diversas áreas, como por exemplo o TedQual, da OMT, além de convidar técnicos dos demais países para participarem das atividades governamentais no Brasil.

Foi discutida a necessidade de normatização comum quanto à certificação. A delegação brasileira afirma que se trata de um sistema de adesão voluntária, entretanto, este tema ainda está sendo estruturado pelo Ministério do Turismo do Brasil, manifestando seu interesse em trocar informações neste sentido para que seja feito um avanço conjunto.

Na área da cooperação técnica financeira, a delegação paraguaia ressalta a importância de "pacotes comuns", como o das Missões Jesuíticas, e de que seja salientado que o turismo é uma das poucas atividades que permite o desenvolvimento regional sustentável.

4 OUTROS TEMAS

4.1 APROXIMAÇÃO COM A COMUNIDADE ANDINA

Fica decidido que será feita uma recomendação aos senhores Ministros para viabilizar a aproximação com os países associados e a Comunidade Andina.

4.2 REALIZAÇÃO DE REUNIÕES TÉCNICAS ALTERNADAS DA OMT PARA O MERCOSUL

As delegações acordaram na importância de solicitar à OMT que realize reuniões técnicas sobre temas de interesse comum alternadamente em todos os países da região. As datas e temas serão definidos na próxima reunião da RET.

A delegação Brasileira sugere que seja feito o convite para que as reuniões da Rede Mercocidades ocorram de forma paralela às reuniões da RET quando possível.



4.3 JICA

A representante uruguaia iniciou as discussões sobre a promoção do Mercosul no Japão e comentou a solicitação de que 4 pessoas de cada país devem participar do seminário que terá início em 27 de setembro e enfatizou a importância da participação dos quatro países na feira JATA 2003, sob os auspícios da JICA. Recordou a sugestão de que cada um dos representantes estabeleça um grupo de discussão em seu país, com inclusão do setor privado.

O representante japonês sugeriu que seja elaborado um material conjunto de promoção do Mercosul, com 10 a 15 páginas, contendo uma apresentação do Mercosul e em seguida uma apresentação dos países, para ser enviado ao Japão que se responsabilizará pelo lay-out, diagramação e impressão, enviando um draft aos países para aprovação final dos ministros.

O material de cada país está sendo elaborado e encaminhado pelas autoridades nacionais de turismo.

As delegações recomendaram que os ministros aproveem os conceitos desenvolvidos na grade de trabalho elaborada em conjunto com a JICA, com o objetivo de transformá-la em um projeto de cooperação para os próximos cinco anos.

4.4 ELABORAÇÃO DE PAUTA PARA REUNIÃO DE MINISTROS DE TURISMO DO MERCOSUL

4.5. CIRCUITO INTEGRADO MISSÕES JESUÍTICAS

Foi feita uma explanação pelo Senhor Prefeito Municipal de São Miguel das Missões, que comentou sobre as ações que envolvem as Missões Jesuíticas. As delegações acordaram na realização de um segundo seminário internacional sobre o tema, a realizar-se na Missão de Trinidad, Paraguai, e na necessidade de criação de um organismo regional perene, que articule, a exemplo do que ocorre com o Mundo Maia, a obtenção de recursos junto a órgãos como OEA, BID, BIRD, OMT e UNESCO.

O Prefeito Municipal salientou a importância de articular os roteiros, dando continuidade a iniciativas como o primeiro seminário recentemente realizado em São Miguel das Missões.

O delegado argentino mencionou que há um forte consenso quanto à necessidade de melhorar a infra estrutura para que possamos apresentar um produto verdadeiramente ofertável aos mercados emissores.

BR/TIC-014.8112

Os delegados concordaram em solicitar que os ministros registrem o interesse do ponto de vista do desenvolvimento turístico das Missões do concerto denominado "O Resgate de um Sonho", a realizar-se em São Miguel das Missões, no próximo dia 8 de novembro.

Ficou acordado que a RET expressará seu apoio aos trabalhos visando viabilizar o produto Missões Jesuíticas.

1. LOCAL E DATA DA PRÓXIMA RET

A XXXVI RET terá lugar no Uruguai, na cidade de Montevideu e deverá ser realizada no período de 01 a 02 de setembro de 2003.

ANEXOS

Os anexos que formam parte da presente Ata são os seguintes:

- Anexo I - Lista de Participantes
- Anexo II - Agenda
- Anexo III - Projeto OEA – Desenvolvimento de Produtos e Circuitos Turístico Integrados
- Anexo IV - Documento ABAV – Principais Problemas / Entraves Apontados
- Anexo V - Organograma do Mercosul

Pela Delegação Argentina

Pela Delegação Brasileira

Pela Delegação Paraguaia

Pela Delegação Uruguiaia

ANEXO Nº II da Ata Nº 01 / 03 da Reunião Especializada em Turismo

AGENDA TENTATIVA

I. Redefinição interna:

- Revisão de formação
- Revisão da forma de funcionamento
- Transformação da RET em Sub-Grupo de Trabalho
- Secretaria Permanente (Assunção)

II. Definição de objetivos principais:

- Inserção do turismo na consolidação do MERCOSUL como bloco
- Incremento do fluxo de turistas nos países do MERCOSUL

III. Temas Prioritários:

5 Inserção do turismo na consolidação do MERCOSUL como bloco

1.1 Comitê de Marketing

6 Incremento do fluxo de turistas nos países do MERCOSUL

6.5 Barreiras legais e administrativas

6.6 Transporte Aéreo (Acordo Transporte Aéreo Sub-regional), Terrestre,
Fluvial e Marítimo

6.7 Liberação de serviços (Protocolo Marco de Serviços de Montevideu)

7 Cooperação Técnica

7.5 Comitê de Cooperação Técnica

8 Outros temas

4.1 Aproximação com a Comunidade Andina

4.2 Captação de eventos da OMT para o MERCOSUL

4.3 JICA (inserção em sub comitê da RET)

4.4 Elaboração de pauta para Reunião de Ministros de Turismo do
MERCOSUL

TR/TIC-014 • 11/12



**Ministério do Turismo
Gabinete do Ministro
Assessoria Internacional**

**XXXV Reunião da RET
Agenda Tentativa**

Segunda-feira, 23 de junho

09 horas – Reunião dos coordenadores nacionais da RET (Hotel Meliá Confort – sala Goiás II)

13 horas - Almoço livre

15 horas – Continuação dos trabalhos da manhã e preparação da pauta para a reunião das Mais Altas Autoridades (Hotel Meliá Confort – sala Goiás II)

Chegada das Mais Altas Autoridades e Ministros da Bolívia, Chile e Peru – horários a confirmar

20 horas – Jantar em homenagem às Mais Altas Autoridades da RET e aos Ministros do Turismo da Bolívia, Chile e Peru, acompanhadas do coordenador nacional e um assessor. Estarão presentes representantes do MRE, os Presidentes das Subcomissões de Turismo da Câmara e do Senado Federal e o Presidente da Frente Parlamentar de Turismo. (Hotel Meliá Brasília – Restaurante Norton)

Terça-feira, 24 de junho

08:30 horas – Café da manhã de confraternização das delegações estrangeiras (Hotel Meliá Brasília – Restaurante Norton)

10 horas – Reunião das Mais Altas Autoridades da RET, com a presença dos Ministros do Turismo da Bolívia, Chile e Peru (Hotel Meliá Confort – sala Goiás II)

13 horas – Assinatura da Ata Final

13:30 horas – Almoço para as Mais Altas Autoridades da RET e aos Ministros do Turismo da Bolívia, Chile e Peru, acompanhadas do coordenador nacional e de um assessor (Restaurante Bargaço)

BR/TIC-014 • 12/12

15:00 horas – reunião com o Presidente do Senado, Senador José Sarney

15:20 horas – Reunião com o Presidente da Câmara dos Deputados, Deputado João Paulo Cunha

16 horas – Reunião com o Senhor Presidente da República (Palácio do Planalto)

16:40 horas – Coletiva de Imprensa (Presidência da República)

18 horas – visita à Catedral de Brasília e ao Memorial JK (a confirmar)

Jantar livre

Hotel Meliá Confort
SHS – Qd. 06 Cj.A – Bl F- Asa Sul
CEP 70316-000 – Brasília – DF
Tel.: (55 61)218-4700
Fax.: (55 61) 218-4700







Rev.22/06/06

LIST OF PARTICIPANTS
MERCOSUR TOURISM PROMPTION SEMINAR

JICA
JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY
国際協力事業団

メルコスール観光振興セミナー

February 2, 2003 ~ March 7, 2003







1	 ARGENTINA アルゼンティン	Mr. Bernardo Alejandro RACEDO ARAGON ベルナルド アレハンドロ ラセード アラゴン June 22, 1962 D0210721 サルタ州政府 観光局長	Mailing Address: Angel M. Figueroa 1172- Grand Bourg Salta Salta,(4400), Argentina Secretary of State of Tourism, Government of Salta Province
2	 ARGENTINA アルゼンティン	Ms. Gladys Estela LUCERO グラディス・エステラ・ルセーロ January 1, 1952 D0210720 観光スポーツ庁 観光振興部長	Mailing Address: Suipacha 1111- P21,(C1008AAW),Buenos Aires, Argentina Chief of Department of Promotional Activities, Secretary of Tourism & Sports
3	 ARGENTINA アルゼンティン	Ms. Marta Susana GARCIA マルタ スサーナ ガルシア February 10, 1961 D0210722 ネウケン州政府観光局 副局長 兼 情報 コーディネーター	Mailing Address: Guleguay 206, (8300) Neuquén Capital, Neuquén, Argentina Coordinator of Web Site/ Under secretary of Government of Neuquén Province
4	 BRAZIL ブラジル	Ms. Ines de Fatima Oliveira da Silveira イネス デ ファティマ オリベイラ ダ シルベイラ July 22, 1962 D0210723 祭事・イベント企画コーディネーター、 ベレン市役所	Mailing Address: Conjunto Satélite-Tv,08,865, Nova Marambaia, Belém, Pa, Brasil Coordinator of Organizing Ceremony and Events, City Hall of Belém
5	 BRAZIL ブラジル	Mr. Marcos Niemeyer Moreira マルコス ニエメエール モレイラ April 22, 1957 D0210740 ブラジル観光公社 プロジェクトマネージャー	Mailing Address: SQS 214 Bloco F, Apt 507, 70293-060, Brasilia DF, Brazil Project Manager, Brazilian Tourist Board(EMBRATUR)
6	 BRAZIL ブラジル	Ms. Tania Maria da Silva Penha タニア マリア ダ シルバ ペーニャ May 30, 1961 D0210749 ブラジル観光公社 アシスタントプロジェクトマネージャー	Mailing Address: SCN Quadra 2, Bloco G, Asa Norte, Brasilia DF, Brazil Assistant Project Manager, Brazilian Tourist Board(EMBRATUR)

LIST OF PARTICIPANTS
MERCOSUR TOURISM PROMPTION SEMINAR

JICA
JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY
国際協力事業団

メルコスール観光振興セミナー

February 2, 2003 ~ March 7, 2003

7	 PARAGUAY パラグアイ	<p>Mr. Helios Jorge RAMIREZ YELSI <small>Mailing Address</small> Palma 468, Asunción, Paraguay</p> <p>エリオス ホルヘ ラミレス イエルシ</p> <p>September 28, 1958 D0210753</p> <p>政府観光庁 オペレーション部 部長 Director of Operational Direction, National Tourist Board</p>
8	 PARAGUAY パラグアイ	<p>Ms. Juana Rosa QUEVEDO DE ALVAREZ <small>Mailing Address</small> Gral Santos. 536, Asunción, Paraguay</p> <p>フアナ ロサ ケベド デ アルバレス</p> <p>August 31, 1961 D0210752</p> <p>政府観光庁 プロモーション部 部長 Head of Promotion Department, National Tourist Board</p>
9	 URUGUAY ウルグアイ	<p>Mr. Germán Manuel COUTINHO RODRIGUEZ <small>Mailing Address</small> Artigas 611, Apto.301, Salto, Uruguay</p> <p>ヘルマン マヌエル コウティニーニョ ロドリゲス</p> <p>April 1, 1970 D0211008</p> <p>サルト市役所 青年スポーツ部 アドバイザー Adviser of Youth & Sports Dept. Salto Municipal Office</p>
10	 URUGUAY ウルグアイ	<p>Ms. Gloria Selika CAMPOS XAVIER <small>Mailing Address</small> Minas 1036</p> <p>グロリア セリカ カンボス ハビエル</p> <p>April 23, 1959 D0211005</p> <p>観光省 省令部 Officer in charge of the Ministerial Ordinance Dept., Ministry of Tourism</p>
11	 URUGUAY ウルグアイ	<p>Ms. Maria Carolina ASUAGA <small>Mailing Address</small> 21 de Setiembre 3016/1003</p> <p>マリア カロリナ アスアガ</p> <p>March 31, 1965 D0211007</p> <p>ウルグアイ大学 経済科学部 教授 Professor, Faculty of Economic Science, University of the Republic</p>
12	 URUGUAY ウルグアイ	<p>Ms. Paola Anna PERELLI FRAGA <small>Mailing Address</small> W.F.Aldunate 1341 CP 1100, Montevideo, Uruguay</p> <p>パオラ アナ ペレリ フラガ</p> <p>July 12, 1977 D0211006</p> <p>ラーレス農園・宿泊会社 取締役 Director, Lares Estancias & Posadas</p>

J0220344